

ゆい 結 ゴくりブラン

あいさつから始まる北茨城物語

第3次北茨城市地域福祉活動計画

(令和2年4月～令和7年3月)

北茨城市社協
マスコットキャラクター

ゆい
結ちゃん



北茨城市社会福祉協議会地域福祉推進委員会
社会福祉法人北茨城市社会福祉協議会



ごあいさつ

～あいさつから始まる北茨城物語～

近年、高齢者や子育て世帯、障害者など、従来の支援を必要とする人に加え、子どもの貧困を含む生活困窮者、権利擁護が必要な人への、新たな課題への取り組みも求められています。地域社会においては、核家族化の進行や地域とのつながりの希薄化、人々の価値観やライフスタイルの変化などを背景に、地域課題が多様化・複雑化しており、経済不況などを背景に、青少年や中年層における心の病や自殺、また虐待やひきこもりなど、新たな社会問題も発生しています。

このような状況の中、誰もが住み慣れた地域で、安心して健やかに暮らしていくためには、「自助」「共助」「公助」の仕組みの中で、支えあい・助け合っていくことが大切であり、市民の皆様と行政及び専門機関が、それぞれの役割分担のもと地域福祉活動を推進することが、これまで以上に重要になってきております。

北茨城市社会福祉協議会では、このような社会的背景から「誰もが安心して暮らせるわたしたちのまち北茨城」を基本理念に掲げ、市の策定した“地域福祉計画”との整合性を図りながら、第1次・第2次の地域福祉活動計画を策定し進めて参りました。

もともとの原点は“結の精神”が発端でした。「結」とは、小さな集落単位で労働力を対等に交換しあって田植え、稲刈りなど農の営みや住居など生活の営みを維持していくために共同作業をおこなうこと、もしくはそのための相互扶助組織の精神で成り立つ共同の生業作業です。この「結」は、過去にはどこにでも見られた共同作業の仕組みでしたが、現在では地域社会の衰退により集落の中でも消え去ろうとしています。確かに、近年ではお互いがもう一度地域の小さな単位から個人同士が結び直し、つながっていきこうとの機運が盛り上がってきたのも事実ですが、裏返せばそれぞれの危機意識からといえます。近代的な合理化という波に押しつぶされ、既に無くなっているところも多くなっています。ボランティアの仕組みも現代の結といえるのではないのでしょうか。「誰かの助けになりたい。役に立ちたい」。その思いさえ無くさなければ、たとえ形は変わっても、結の精神は残っていくはずです。守るというのは、形ではなく心の問題です。ふるさとに誇りを持ち続けるためにも、この結の精神を守り続けることが大切だと思います。

このたび、新たに今後5年間の計画である第3次地域福祉活動計画（令和2年度～令和7年度）を策定いたしました。この計画では、策定委員会および作業部会において、改めて住民が自分たちの住む周辺で気になったことを様々な観点から問題点を抽出し議論してまいりました。

そして、5年後の住む町が「隣に住んでいる人の顔がわかる」、「困った時に相談できる」地域になることを目指す「結づくりプラン」が完成しました。今回の基本理念の指針となるテーマは「あいさつから始まる北茨城物語」であり、市民みんなが思い描く5年後の当市のあるべき地域社会像を目指して取り組むものです。

この計画の趣旨を効果的に実施に移すため、各地区の特性を活かした実施計画を策定し、より一層充実した活動を目指していきますので、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、この計画を策定するにあたり、ご尽力を賜りました長谷川幸介先生をはじめ、外岡 仁先生、地域福祉推進委員会の皆様、そして貴重なご意見やお知恵を頂きました市民の皆様、まさに地域住民による住民のための計画を策定することができましたことに心から感謝申し上げます。

令和2年3月

社会福祉法人北茨城市社会福祉協議会

会 長 豊 田 稔



ごあいさつ

～第3次北茨城市地域福祉活動計画策定に寄せて～

今回、第3次北茨城市地域福祉活動計画を策定するに当たり、まず冒頭にこの策定作業に関わって頂いた、推進委員会の皆様方、並びに多方面にわたる関係機関・諸団体の方々のご協力・ご尽力に感謝と敬意の念を申し上げます。

この活動計画は準備期間を含め2年程かけて策定してまいりましたが、第2次地域福祉活動計画(結づくりプラン)が「絵に描いた餅」にならぬ事を念頭に、更なるバージョンアップを目指すべく、地域の代表者からなる「結づくりプラン取組み委員会」を設置させて頂く事により、計画が実施される中、新たな課題を探究すべく、数多くのワークショップを通じて話し合いを重ねてまいりました。また、その一方で社協内部でも自己点検が行える様、各部署の職員からなる「ワーキングチーム」を立ち上げ、その取り組みに対し、アンケート調査の実施や事業に対する意見交換などにより活動計画の発展に取り組んでまいりました。この二つのワーキングチームの視点から「PDCA」サイクル[計画(P L A N)・実行(D O)・評価(C H E C K)・行動(A C T I O N)]による振り返りを実施してきました。

これらの反省に基づき、第3次地域福祉活動計画策定に向けては、「誰もが安心して暮らせるわたしたちのまち北茨城」、特に「あいさつから始まる北茨城物語」をメインテーマとして指針に据えました。更に、①「ボランティア」②「地域交流」③「学校」④「情報」⑤「支部社協」⑥「人材育成」⑦「社協の見直し」など7つの課題に分け集約しました。あらゆる小さな疑問さえも見逃さず、真正面から受け止め、改善に向けて取り組む委員の情熱に立ち会わせて頂き、これからの北茨城福祉の未来が、前途洋々であることを実感することができました。

市民一人ひとりの想いや生き方を尊重し合いながら生きていく福祉文化は当然のように思われがちですが、決して一朝一夕には片付けることなどできません。これまで、地域福祉活動計画に関わる長き道程や第3次地域福祉活動計画完成まで多くの苦心と努力が、魅力ある地域福祉資源となり広がり定着してきたことを決して忘れてはいけません。次のステージに向け、更なるバージョンアップが必要になるのです。

しかし、どれ程素晴らしい計画を策定しても、「机上の空論」では意味を成しません。今般、急激な少子高齢化や核家族の進行に伴い人々の価値観も多様化し、地域を取り巻く状況も急速に変化する中、地域住民や行政・福祉関係者等、地域の多様な主体が連携し・協働していく「地域共生社会」の実現を今後の福祉改革の基本とするなら、その実現に向けては、地域力の強化・包括的支援体制の整備を一致協力していけるよう努力しなければならないと考えます。

最後に、「令和」という新時代を迎え、地域福祉の在り方は益々複雑多様化していくと予想されますが、忘れてならない大切なことは「思いやり」「優しさ」「共に支え合う心」そして「あいさつのできる人づくり」であると考えます。私たち社会福祉関係者は、今後も関係各位と共に、経験と実績を生かしながら、それぞれの立場で質の高い専門性を発揮し、その存在意義を示すとともに地域福祉推進役となって、誰もが住み慣れた北茨城市で安心して過ごせる福祉のまちづくりを進めていけるよう日々精進していく所存です。

令和2年3月

北茨城市社会福祉協議会地域福祉推進委員会

委員長 茅 根 修 善

目 次

第1章 第3次地域福祉活動計画の概要	1
1 第3次地域福祉活動計画策定の目的と概要	2
2 行政計画との関係・第3次地域福祉活動計画の期間	4
第2章 第2次地域福祉活動計画の振り返り	5
1 第2次地域福祉活動計画の振り返り	6
2 みんなの声	7
第3章 第3次地域福祉活動計画の基本構想	9
1 第3次地域福祉活動計画の体系図	10
2 基本理念と指針	11
第4章 第3次地域福祉活動計画への取組み	13
1 第3次地域福祉活動計画の7つの課題	14
2 第3次地域福祉活動計画の取組み	15
3 社協支部の取組み（重点目標）	22
第5章 第3次地域福祉活動計画の進行管理	23
1 進行管理の考え方	24
2 進行管理の進め方	24
資料編	27
1 第2次地域福祉活動計画の取組み経過	28
2 第2次地域福祉活動計画の取組み状況	30
3 北茨城市社会福祉協議会地域福祉推進委員会設置要項	48
4 北茨城市社会福祉協議会地域福祉推進委員名簿	49

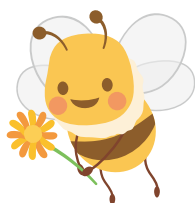


第 1 章

第3次地域福祉活動計画の概要



《きたいばキッズハロウインの様子》



1. 第3次地域福祉活動計画策定の目的と概要

(1) 社協ってどんなところ？

みなさんは、社会福祉協議会(略称「社協：しゃきょう」)を知っていますか。

「名前は聞いたことがあるけど、どんな活動をしているのか知らない」「市役所の機関」…そう思っている方も少なくないかもしれません。

災害があったときに「災害ボランティアセンター」を設置することなどで、テレビや新聞でときどき目にする機会は増えたかもしれませんが、まだまだ知られていないのが現状です。

社協は、社会福祉法という法律に基づき全国の都道府県、市町村に設置される、営利を目的としない社会福祉団体です。

社協は、地域の人々が住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の推進役です。地域の福祉課題を把握し、解決に向けた活動をしたり、ボランティア活動など住民の主体的な福祉活動の支援を行っています。また、時代の変化と地域の福祉に対応した福祉サービスや福祉活動を充実させるため、調査、広報、人材育成、計画づくりなどを行っています。

(2) 社協支部とは

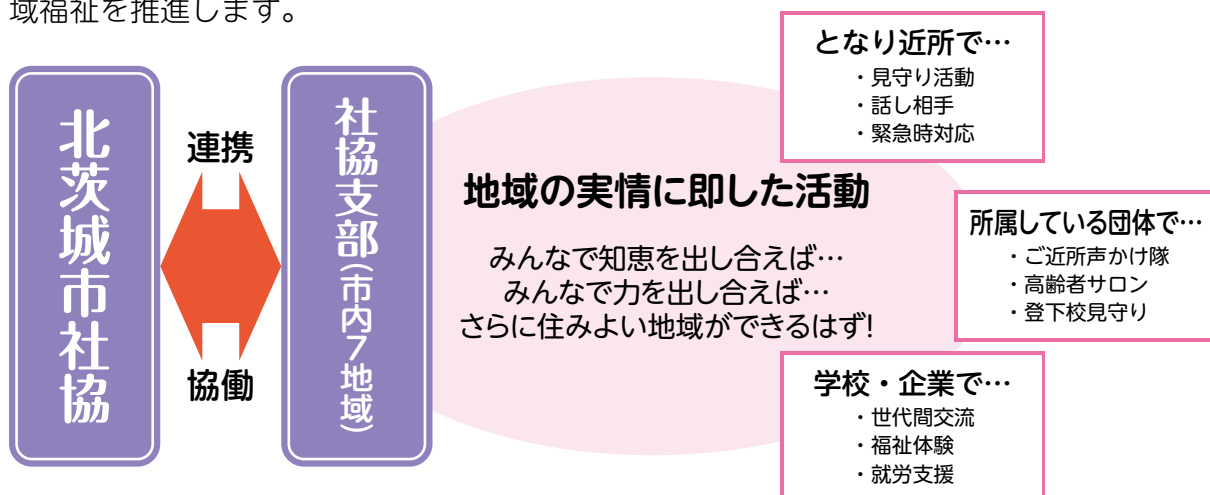
市内7地域(各町)を単位に組織されている、市民による組織です。

社協支部では、民生委員・児童委員、ボランティア、高齢者クラブ等の福祉関係団体の代表者の方などが、身近な場所での困りごとを地域の課題として捉え、その解決に向けた取り組みを進めています。

各支部が地域の実情に即した活動を展開しています。

主な活動としては、登下校の見守り、高齢者サロン、ご近所声かけ隊として地域づくり、小学校などにおける世代間交流などです。

社協支部は、市社協の下部組織ではなく、主体的に地域福祉を進める住民組織です。市社協とは、対等なパートナーとして、住民同士の「助け合い」や「支え合い」により地域福祉を推進します。



(3)行政の福祉事業

人はだれしもなんらかの悩みや困りごとを抱えながら生きています。

子育てに関する悩み、介護に関する悩み、一人暮らしで安否の確認に関する悩み、交通手段がない等いろんな悩みや困りごとがあります。

そのために、行政の福祉事業があります。

行政機関は「困りごと」を抱える方々を支援するために、福祉の充実に努めています。

しかし、今後、さらに進展する高齢化による要介護者・単身世帯の増加や社会的孤立の拡大など、みんなが抱える問題は複雑多様化していくことが考えられ、そのすべてに対応することは困難です。

それでも、私たちはそこで暮らしていきます。

そんなときに、少しでも周りの方と協力出来たら、自分にできることをしてあげたら、ご近所の方々と助け合いながら生活できたら、暮らしやすくなると思いませんか。

ただ、何かしてあげたくてもどのように始めたらよいか、何をしてあげたらよいか、分かりませんよね。

地域みなさんと動き出したい。
みんなの想いを活動につなげるための
目的とヒントそれが…



第3次北茨城市地域福祉活動計画

2. 行政計画との関係、第3次地域福祉活動計画の期間

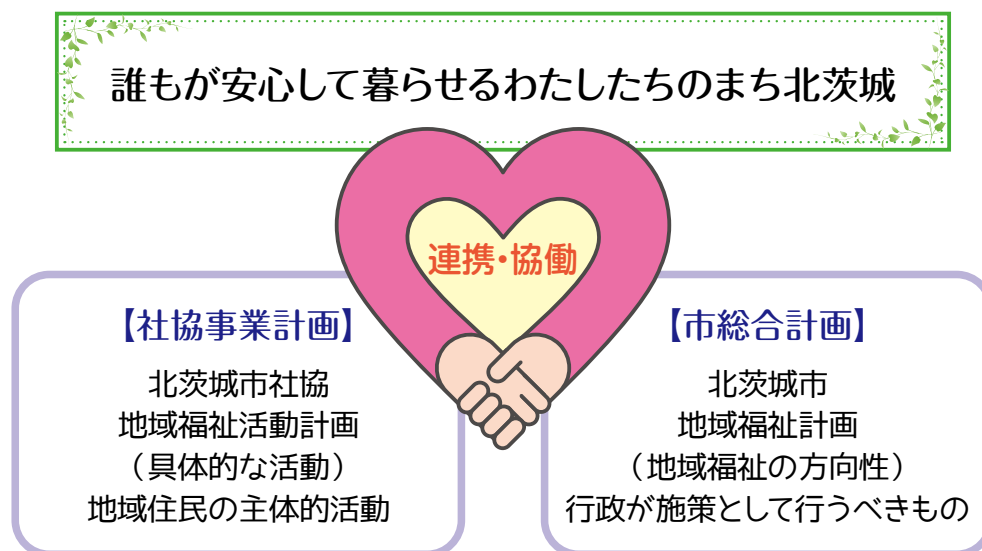
(1)行政計画との関係

地域のために何かをしたいという「みんなの想い」を具体化したものが「地域福祉活動計画」です。

この地域福祉活動計画は、地域に暮らすみなさん、市民、行政、社協等がそれぞれの立場でできることを持ちよりながら進めていきます。

地域福祉活動計画が具体的な活動を示したものであるのに対し、北茨城市で策定する「北茨城市地域福祉計画」があります。

地域福祉計画は、北茨城市における地域福祉の方向性を示しており、活動計画と車の両輪になって、連携・協働して進めていきます。



(2)活動計画の期間

この計画は、令和2年度から令和6年度までの5ヶ年を計画期間としています。

毎年、市民みんなで計画の進み具合について話し合いながら活動していきます。

【スケジュール表】

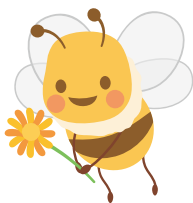
令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
地域福祉活動計画				
↑	↑	↑	↑	↑
みんなの取組み				
北茨城市地域福祉計画				

第 2 章

第2次地域福祉活動計画の振り返り



＜＜福祉体験学習の様子＞＞



1. 第2次地域福祉活動計画の振り返り

第2次地域福祉活動計画(以下、「結づくりプラン」という。)は、平成27年3月に5か年の計画で策定されました。

私たちは、計画を進めるうえで「絵に描いた餅」にしないということに心がけました。

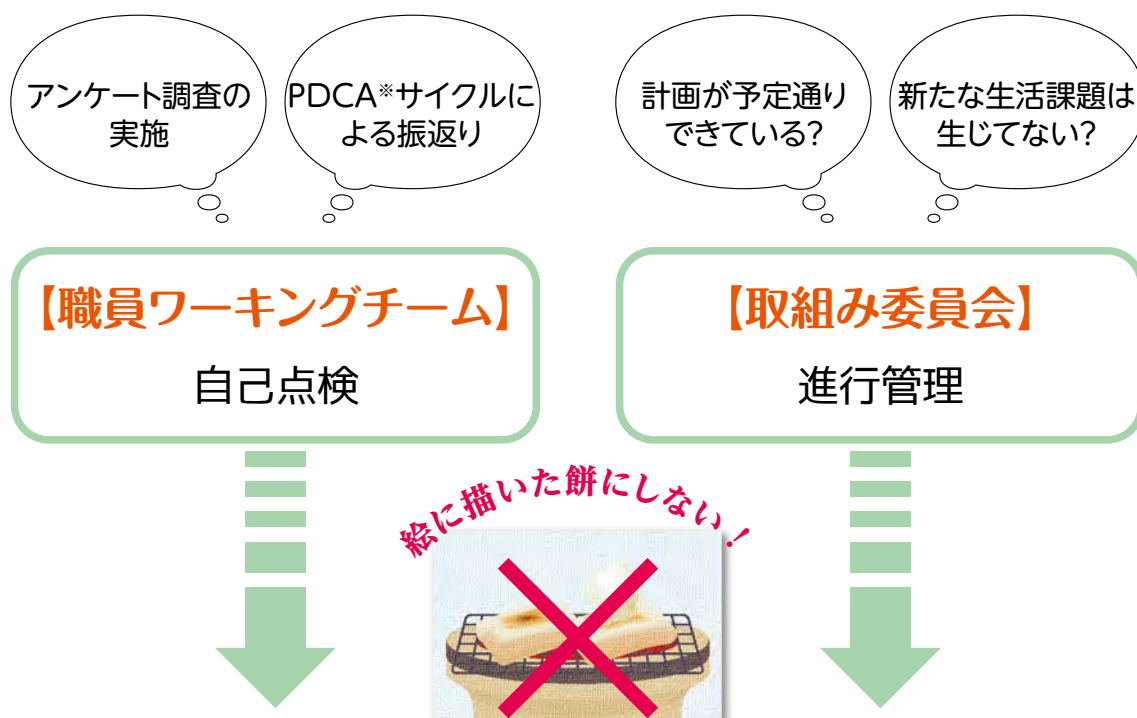
計画の着実な進行管理を図るために、地域の代表者などからなる「結づくりプラン取り組み委員会」を設置いたしました。

この委員会では、計画が実施されている中、新たな生活課題は生じていないかなどについて、ワークショップを通じて話し合ってきました。

ワークショップで出たアイディアの一つに、社協の活動をより知っていただくために「社協のプロモーションビデオ作製」という意見がありました。その提案を受け、職員が知恵を出し合って作製し、各種イベントの際などに上映しております。

一方、社協内部でも自己点検ができるように、各部署の職員からなる「ワーキングチーム」を立ち上げました。社協一つ一つの取り組みに対し、職員に対してアンケート調査を実施したり、事業について意見交換をしたり、活動計画が常に発展していけるように取り組みました。

取り組み委員会・職員ワーキングチームの2つの視点から、PDCAサイクルによる振り返りを実施してきました。



第2次地域福祉活動計画

※PDCAサイクル…P24参照

2. みんなの声

地域福祉活動計画は、みんなの困っていることにみんなが取り組んでいくヒントとなるような計画です。

地域にはいろいろな方が住んでいます。歳を重ねた方、障がいを持っている方、子育て中の方、子どもたち、住んでいる場所や年齢など、困っていることは、色々な要因で変わってくると思います。

大切なことは、みんなの声を聴いて、みんなの声を伝えて、みんなで取り組んでいくことです。

そのために、高齢者、子育て世代、児童生徒などにアンケートを実施しました。

これからも、みんなの声を社協支部を中心とした地域みなさんと考えていきます。

○アンケートの実施

①児童・生徒

内 訳：市内小学5・6年生80名、中学1年生102名を対象に実施

テーマ：地域との交流などについて

②子育て世代

内 訳：0歳から5歳までの乳幼児を子育て中の保護者100名を対象に実施

テーマ：子育て中の悩みなどについて

③高齢者等

内 訳：高齢者サロンの利用者等270名を対象に実施

テーマ：日常生活での困りごとなどについて

子ども達の声

- ・近所の大人は、あいさつや声かけをしてくれます。
- ・ボランティア活動に興味があって参加してみたい。
- ・大人になっても北茨城に住みたいな。



子育て世代の声

- ・子育てに関する情報は、SNSで調べています。
- ・親子で体験できるイベントがあるといいな。
- ・子どもが病気の時に預かってくれるところはなかなかな。



高齢者の声

- ・買い物に行くことが大変だな。
- ・近所で体操やおしゃべりができるところがあるといいな。
- ・自分の住んでいる近くではどんなイベントをやっているのだろう。



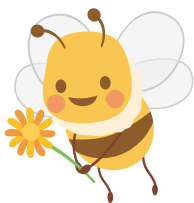


第 3 章

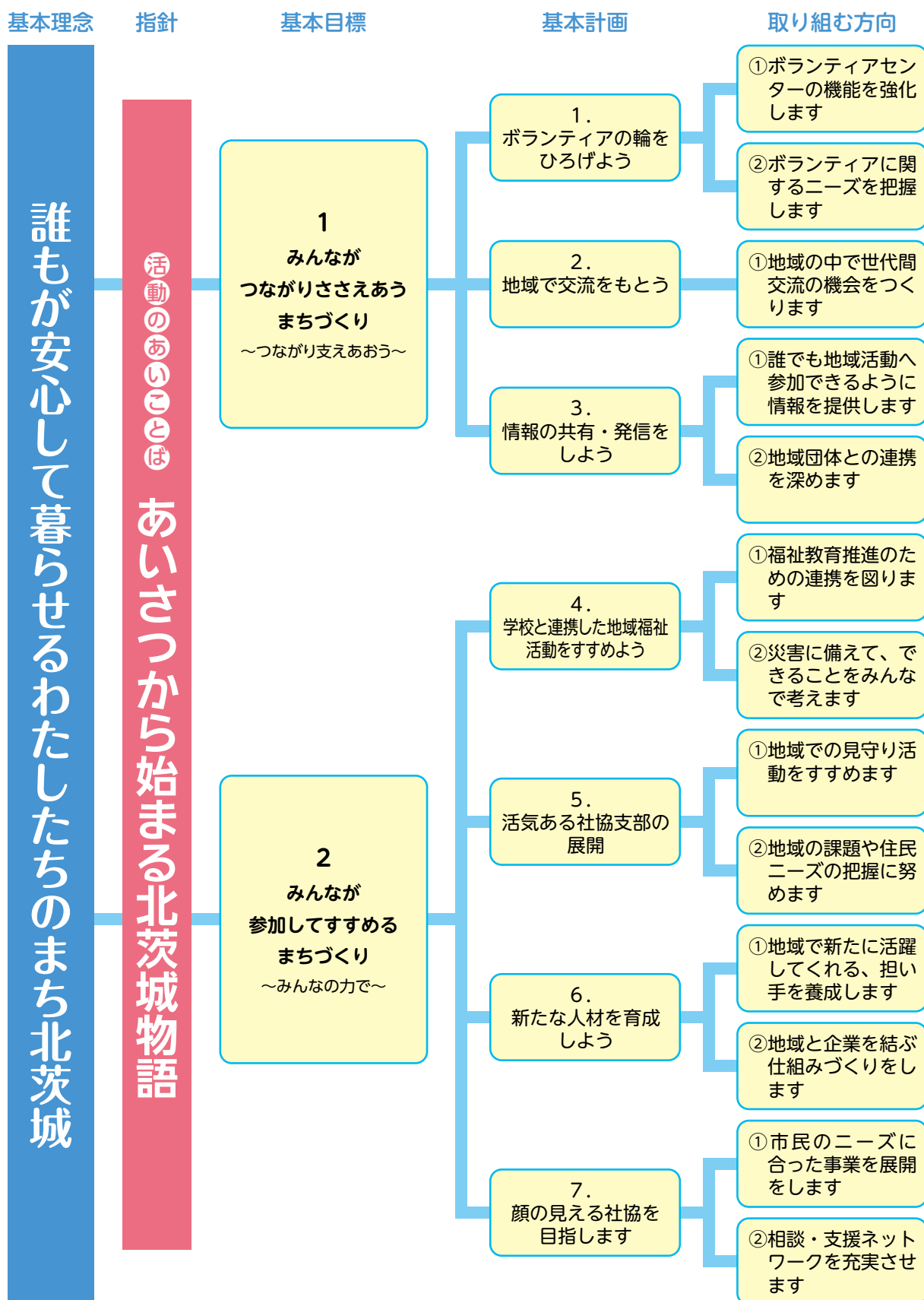
第3次地域福祉活動計画の基本構想



＜＜高齢者サロンの様子＞＞



1. 第3次地域福祉活動計画の体系図



2. 基本理念と指針

(1)基本理念

第1次地域福祉活動計画・第2次地域福祉活動計画の基本理念である「誰もが安心して暮らせるわたしたちのまち北茨城」を揺らぐことなく継承していきます。

「安心して暮らしていきたい」これは、誰もが願うことです。

自分自身を含めた、すべての人が安心して暮らしていくためには、普段から自分たちの身近な問題を一緒に考えていくことが必要です。

「地域福祉」を「住民が抱えるひとつひとつの生活課題に取り組むこと」とし、住民・行政・社協が一体となって進めていきます。

(2)指針

第2次地域福祉活動計画で示された「あいさつから始まる北茨城物語」を第3次地域福祉活動計画においても基本理念実現のための指針とします。

地域福祉を進めるためには、住民同士の「助け合い」「支え合い」が不可欠です。しかし、「助け合い」「支え合い」といきなり言われても、どうしてよいか分かりません。

普段おつきあいのない方でも、まずは「あいさつ」から始めてみるのが地域を創る第一歩となります。

あいさつから始まる、北茨城物語

おはよう 私の日 私たちの一日

潮風が吹き抜け、今日の元気を与えてくれる

「つながる元気」は私たちの誇り

ふりかえれば、太平洋 そして北茨城仲間

こんにちは 私の日 私たちの一日

緑の山並に包まれ、今日の暮らしを見守ってくれる

「支え合う地域」は私たちの幸せ

ふりかえれば、阿武隈 そして北茨城仲間

私たちの幸せは、絆が出发点 あいさつこそが出发点

こんばんは 私の日 私たちの一日

家と街に灯りがつき、今日の安らぎを包んでくれる

「心配るご近所」は私たちの生き方

ふりかえれば、先人のあふれる優しさ そして北茨城仲間

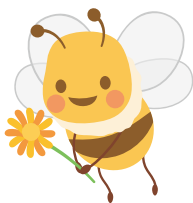


第 4 章

第3次地域福祉活動計画への取り組み



《グラウンド・ゴルフ大会の様子》



1. 第3次地域福祉活動計画の7つの課題

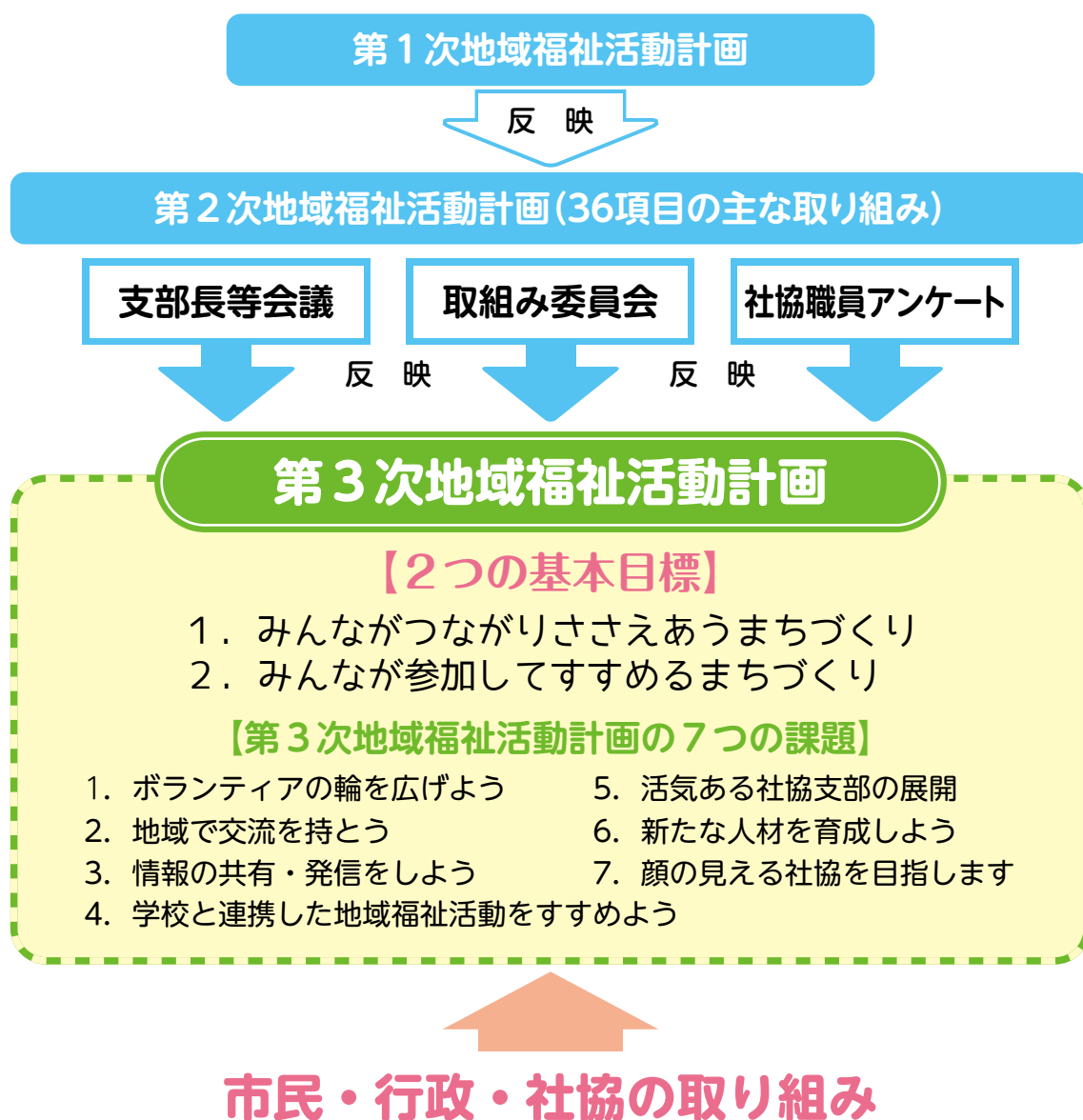
第2次地域福祉活動計画では、「誰もが安心して暮らせるわたしたちのまち北茨城」という基本理念を実現するために、4つの基本計画のもと「36項目の主な取り組み」を活動の柱として進めてきました。

この主な取り組みは、第1次地域福祉活動計画の評価と新たな課題を踏まえたものとなっております。

第1次地域福祉活動計画・第2次地域福祉活動計画を通して、横断的になっていた課題や取り組むべき事業内容が明確になってきました。

第3次地域福祉活動計画では、「ボランティア」・「地域交流」・「学校」・「情報」・「社協支部」・「人材育成」・「社協の見直し」という7つの課題として集約しました。

課題の現状を整理し、どのように取り組んでいくのかを示し、課題に対して、市民・行政・社協のそれぞれの立場でできることに取り組んでいくこととしました。



2. 第3次地域福祉活動計画の取組み

基本目標1：みんながつながり、ささえあうまちづくり

取り組む課題1	ボランティアの輪をひろげよう
---------	----------------

＜現状と課題＞

社会福祉協議会にはボランティアセンターが設置され、ボランティアに関する相談やあっせんに取り組んでいますが、あまり市民に認知されていないのが現状です。

また、ボランティア活動に関心を持つ人がいてもマッチングが上手くいかなかったり、自分に適した活動の情報収集ができる機会も少なく、活動の場が十分ではありません。

ボランティアに関するニーズ調査を実施したことはなく、地域住民がどのような講座を望んでいるのかを把握できていません。多様なニーズをキャッチし、それに対応できる新たな活動を展開します。

○主な取組み

①ボランティアセンターの機能を強化します。

取り組む内容	ボランティアセンターとしての役割を果たすとともに、周知に努めます。
--------	-----------------------------------

②ボランティアに関するニーズを把握します。

取り組む内容	様々なボランティアに関する講座を開催します。
--------	------------------------



○それぞれが行う取組み

わたしたち市民は…	・ボランティアに関する情報を市民に伝えます。 ・ボランティア活動に参加します。 ・ボランティアセンターに情報を提供します。
わたしたち社協は…	・ボランティア団体一覧を社協ホームページに掲載します。 ・講座終了後のフォローアップ、参加者の組織化を推進します。 ・講座がマンネリ化しないようにみんなの意見を聞きます。
わたしたち行政は…	・ボランティア市民活動センター(地域福祉交流センター)の利用促進と機能強化を図るため、社会福祉協議会ほか関係機関と連携し、必要な措置を行います。 ・社会福祉協議会を通じ、ボランティアについての広報活動を実施し、市民への理解を深め、ボランティアへの参加を促すとともに、ボランティア団体のネットワーク化の促進や、ボランティア団体の活動を広く市民に公表する機会の確保を目指します。 ・市内の小中学校と連携し、ボランティア活動についての教育活動を実施していきます。 ・NPO法人に対しては、その活動内容を把握するとともに、それを広く市民に提供します。

※行政については、第4期地域福祉計画抜粋

基本目標1：みんながつながり、ささえあうまちづくり

取り組む課題 2	地域で交流をもとう
----------	-----------

＜現状と課題＞

身近な地域で外へ出るきっかけとして「場」は重要な役割を果たしています。

ご近所同士の関係が希薄になっているなか、地域で気軽に行ける高齢者サロン、子育て支援施設などの安心して過ごせる「場」、ちょっとした困りごとや相談をするなど多くの人と交流できる「場」はますます求められています。

高齢者サロンについては、取り組みも普及していますが、開催されていない地域もあり、PRを必要としています。また、住民主体の活動となるようにサロン開催の手順などを市民に周知していくことも必要です。

○主な取り組み

①地域の中で世代間交流の機会をつくります。

取り組む内容	高齢者や子育てサロン等の活動を応援します。
--------	-----------------------



○それぞれが取り組むポイント

わたしたち市民は…	・サロンへの参加を呼びかけます。 ・学校と連携を図ります。 ・サロンに協力します。
わたしたち社協は…	・サロン活動の広報を行います。 ・サロン活動が継続的・安定的に実施できるように支援します。 ・サロン代表者会議を開催します。
わたしたち行政は…	・高齢者のふれあいと生きがいづくりを促進するため、社会福祉協議会や公民館が実施している各種講座等の生涯教育を支援します。 ・世代を超えた交流や、知恵や技術の伝授等を促進するため、三世代の集い事業や学校における地域住民との交流事業を支援します。 ・使用していない市の施設について、市民の交流の場や市民福祉事業等への活用に向けた検討を行います。

※行政については、第4期地域福祉計画抜粋

基本目標1：みんながつながり、ささえあうまちづくり

取り組む課題3 情報の共有・発信をしよう

＜現状と課題＞

行政や社協は、広報誌やホームページなどでさまざまな情報を発信していますが、本当に必要な方に届いているのか、相談しやすい環境なのかを考える必要があります。

情報を届けたい世代にあった方法で、発信することが必要です。

また、地域にはボランティアや当事者団体、市民活動団体等による福祉活動が実施されています。

しかし、活動しても、情報を共有する場面が少なく、各団体の活動内容も見えづらいので、活動に関する情報を集め、地域の皆さんに伝えていきます。

○主な取組み

①誰でも地域活動へ参加できるように情報を提供します。

取り組む内容	社協だより(広報誌)やホームページだけにとらわれない広報活動をします。
--------	-------------------------------------

②地域団体との連携を深めます。

取り組む内容	各団体の活動内容が見えにくくなっているので、広く紹介していきます。
--------	-----------------------------------



○それぞれが取り組むポイント

わたしたち市民は…	・得られた福祉情報を必要な人に伝えます。 ・広報誌やホームページを見ます。 ・SNSを利用して地域で活動している人の情報を広めます。
わたしたち社協は…	・事業チラシを企業に配布します。 ・マスコミに記事を掲載してもらうように働きかけます。 ・社協プロモーションビデオを活用し、より多くの市民に周知します。 ・社協だよりの配布場所を拡げます。 ・社協だよりの内容を充実させます。
わたしたち行政は…	・従来の広報媒体を介した情報提供のほか、公民館等の公共施設に福祉情報のパンフレット等の配置をする等、ケースに応じた効果的な情報提供の手段を選択し取り組みます。 ・相談体制の充実については、福祉・介護・保健等の市民福祉担当窓口が連携し、相談者のニーズに即した迅速な対応が図れる体制整備に努めます。また、各地区の民生委員・児童委員に対し福祉相談業務の研修会等を実施するなど、地域の相談員として活動しやすい状況を作るほか、広報等によりその存在を広くアピールします。 ・子どもとその家庭、妊産婦等を対象に地域の実情の把握、相談対応、調査、継続的な支援等を行う「子ども家庭総合支援拠点」の設置・運営を通じ、相談体制の強化を図ります。

基本目標2：みんなが参加してすすめるまちづくり

取り組む課題4 学校と連携した福祉活動をすすめよう

＜現状と課題＞

福祉・防災教育については、各学校で実施していますが、実際に社協ではどのようなことができるかを広く知らせる情報提供ができていません。これまで、福祉教育では社協職員が中心となってすすめてきましたが、地域の方も参加して交流を図ることが必要です。また、防災教育については、防災に関する団体との連携を図れるように支援していきます。

これからを担う子どもたちに対して福祉・防災教育をさらに推進していくことで「助け合い」・「支え合い」の大切さや、福祉の心を育んでいきます。

○主な取組み

①福祉教育推進のための連携を図ります。

取り組む内容	福祉教育を通して、地域と学校が交流を持てるような関わり方を提案します。
--------	-------------------------------------

②災害に備えて、「できること」をみんなで考えます。

取り組む内容	防災減災に関する知識を深めみんなで一緒に考える機会をつくります。
--------	----------------------------------



○それぞれが取り組むポイント

わたしたち市民は…	・学校のイベントに参加します。 ・学校と話し合う機会をつくります。 ・登下校の見守りをします。
わたしたち社協は…	・福祉教育の取組みに関するアンケート調査を実施します。 ・福祉、防災教育のプログラム集を作成します。 ・福祉教育担当教諭の会議を開催します。
わたしたち行政は…	・福祉教育については、引き続き市内小中学校と連携しながら年間計画に沿った福祉教育を実施します。 ・福祉に関する講演会等の開催を通じて、あらゆる世代に対して、福祉教育活動のPRを図ります。 ・高等学校におけるJRC※(青少年赤十字)活動については、その活動をJRC県支部と共に支援します。

※行政については、第4期地域福祉計画抜粋

※JRC…青少年赤十字の略。主にボランティア活動など。

基本目標2：みんなが参加してすすめるまちづくり

取り組む課題5	活気ある社協支部の展開
---------	-------------

＜現状と課題＞

隣近所のつながりが希薄化し、悩みや不安を抱える世帯の発見・把握が難しくなり孤立してしまうケースが目立つようになってきました。そのようなことを未然に防ぐための地域での見守り活動には、隣近所、地域の協力が不可欠です。みんなが参加しやすいきっかけづくりをし、日頃の近所づきあいや地域活動を充実させていくことが必要です。

○主な取組み

①地域での見守り活動をすすめます。

取り組む内容	隣近所や地域の協力が不可欠な見守り活動を充実させます。
--------	-----------------------------

②地域の課題や住民ニーズの把握に努めます。

取り組む内容	地域での見守り活動や住民懇談会を通して福祉課題の把握に努めます。
--------	----------------------------------



○それぞれが取り組むポイント

わたしたち市民は…	・支部活動をひろめます。 ・地域の情報を積極的に周知します。 ・日常的に「あいさつ」をします。
わたしたち社協は…	・支部長等会議を開催します。 ・社協事業案内(「北茨城市社協の取組み」)を支部に周知します。 ・支部と学校の連携を図ります。
わたしたち行政は…	・市で作成した、災害時要援護者名簿及び避難支援プランに基づき、地域の自治団体・消防団・防災組織等と連携し、災害時要援護者に対する避難行動の協力体制の構築を図ります。 ・地域住民自らが顕在化した地域課題の解決など多様な生活支援の仕組みをつくりあげ、地域づくりにもつながる「生活支援体制整備事業」の推進のほか、要援護者等の交流拠点(サロン)づくりなど地域の課題解決のための取組みを推進します。 ・独居世帯の増加を踏まえて、高齢者等の孤立死を防ぐための地域の見守り体制の整備を進めます。

基本目標2：みんなが参加してすすめるまちづくり

取り組む課題6

新たな人材を育成しよう

＜現状と課題＞

地域で活動してくれている方、ボランティアや社協支部などはメンバーが固定化されている現状があります。企業や団体と連携し、新たな世代から活動者を養成していくことが必要です。

地域に関心を持てるような雰囲気を作り、定年を迎えた人だけではなく、就労している世代にも積極的に働きかけることが求められています。

○主な取組み

①地域で新たに活躍してくれる、担い手を養成します。

取り組む内容	社協だより（広報誌）やホームページだけにとらわれない広報活動を行います。
--------	--------------------------------------

②地域と企業を結ぶ仕組みづくりをします。

取り組む内容	地域の福祉活動等に企業の参加を呼びかけます。
--------	------------------------



○それぞれが取組むポイント

わたしたち市民は…	・地域福祉に興味のある人材の紹介や推薦をします。 ・社協が行っている活動についてPRします。 ・研修や講座に積極的に参加します。 ・企業や地域の団体と連携します。 ・行事や催し物の参加者にも活動のお手伝いをお願いします。
わたしたち社協は…	・福祉に関わりがないような方々へ、情報を届けます。 ・幅広い世代と多くの関係者が参加できるよう曜日や時間帯を検討します。 ・企業への訪問を実施し、社協の事業案内を行います。 ・企業で実施している地域貢献活動等を紹介します。 ・企業と一緒に参加できる活動を提案、支援を行います。
わたしたち行政は…	・広報媒体を活用し、地域住民の相互扶助に関するPR活動の実施を行うとともに、各自治体に対し、団体未加入者への加入促進活動を支援します。 ・ノーマライゼーションの考え方に習い、生涯学習推進会議と連携しながら、年齢や障害の枠を超えて誰もが参加・交流できる生涯学習の機会を推進します。

基本目標2：みんなが参加してすすめるまちづくり

取り組む課題7 顔の見える社協を目指します

＜現状と課題＞

北茨城市が実施したアンケート調査(有効回答396名)によると、「北茨城市社会福祉協議会の名前は知っていても、事務所の場所や活動内容は知らない」という方が50%、「聞いたことがない」という方が12%おり、社協の活動内容は市民に伝わっていないという現状があります。

社協の活動に関して、企業・住民・事業所などに知ってもらうために、みんなの声を聴き、やらなければならない事業から、チャレンジする事業へと変えていき、より進んだ地域づくりを目指します。

○主な取組み

①市民のニーズに合った事業を展開します。

取り組む内容	市民が必要としている事業を調査し、事業化できるように行政などと連携を図ります。
--------	---

②相談・支援ネットワークを充実させます。

取り組む内容	誰でも相談できるしくみづくり、支援ネットワークづくりをすすめます。
--------	-----------------------------------



○それぞれが取り組むポイント

わたしたち市民は…	・社協の活動を知り、困った時は相談できるようにします。 ・社協が行っている福祉サービスに関する情報を確認します。 ・必要に応じ福祉サービスを利用し、地域で安心して暮らせるようにします。 ・地域で困っている人を見かけたら、関係機関に相談するように心がけます。 ・市社協と連携します。
わたしたち社協は…	・職員間の情報共有を図るための会議を開催します。 ・適正な組織運営を図るため、実施している事業を見直します。 ・市民が望んでいるサービスを調査します。 ・他の機関・関係団体等と連携・協力による支援のネットワークを広げます。 ・地域福祉推進委員会を開催します。
わたしたち行政は…	・高齢福祉課、社会福祉課、健康づくり支援課、市民病院、その他関係部局が連携し、高齢者や障害者等支援が必要な市民とその家族に対する相談・情報提供体制の強化を図ります。

3. 社協支部の取組み(重点目標)

社協支部では、聴こえてきた「みんなの声」を地域の皆さんと考えていきます！

関本支部は取り組みます！

- ・結づくりサポーターと連携して高齢者の見守り活動をすすめます
- ・小中学校を訪問し、先生と情報交換をして学校との連携を図ります

平潟支部は取り組みます！

- ・児童の登下校の見守り活動を地域の諸団体と連携して実施します
- ・地域の高齢者とのふれあい事業や見守り活動を進めます

大津支部は取り組みます！

- ・諸団体との連携と活動協力をします
- ・子どもの見守り・高齢者の安否確認をします
- ・多くの町民が参加しやすい事業を計画し、実施します

華川支部は取り組みます！

- ・華川小、中妻小そして華川中のイベントを通しての連携を積極的にすすめ、子どもと大人の「あいさつ」があふれる地域を目指します
- ・「結づくりサポーター」の具体的な取組み、例えば、緊急通報システム協力員としての活動を通して、その活性化を図ります

磯原支部は取り組みます！

- ・きれいな街づくりを推進します
- ・あいさつができる「明るい地域づくり」を実践します

中郷支部は取り組みます！

- ・諸団体と連携して、地域の課題に取り組んでいきます
- ・高齢者とのふれあい事業を進めていきます
- ・笑顔で元気にあいさつができる地域づくりを目指していきます

関南支部は取り組みます！

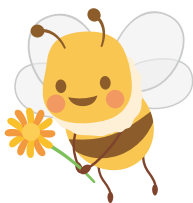
- ・介護予防サロンをさらに充実させ、福祉情報を発信します
- ・学校の先生方との話し合いを定期的に行い、また、イベントに協力します

第 5 章

第3次地域福祉活動計画の進行管理



≪障がい者雇用支援講座の様子≫



1. 進行管理の考え方

わたしたちは日々の暮らしの中で、身体状況・家族構成・地域の環境などの要因によって、さまざまな生活課題を抱えています。

その課題は尽きることがありませんが、少しでも良くしたいという想いがあります。

そのために、この活動計画をずっと続けていきます。

私たちは、地域の暮らしの中で、

「最近地域でこんなことが問題」

「こんな困りごとをよく聞く」といったことを教えてもらいます。

私たちは、地域の課題に対して、

「こんな取組みをしたらうまくいった」

「うまくいかなかった」といったことを教えてもらいます。

私たちは、地域の活動に対して、

「あの町では、こんなことをしているらしいよ」

「うちの地区でもやってみようよ」

そんなことを話し合っていきます。

この計画は、毎年毎年発展し、進化し続ける、みなさんと一緒につくっていく計画です。

2. 進行管理の進め方

第3次地域福祉活動計画の推進・展開に合わせ、地域福祉推進委員会と職員ワーキングチームにより、Plan(計画)－Do(実行)－Check(評価)－Action(行動)－(P・D・C・Aサイクル)を運用し、毎年度ごとに進捗状況の点検・事業評価を行っていきます。

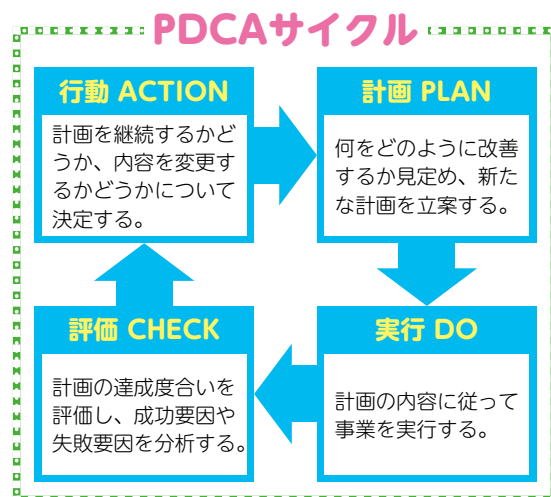
計画の進捗状況の点検

① 計画の進捗状況の把握

計画に記載された活動・事業について、どこまで実施されたか、毎年把握をしていきます。

② 活動の問題点の抽出

活動の内容について、利用者や市民の意見などを吸収し、問題点を抽出していきます。



資料編

1. 第2次地域福祉活動計画の取組み経過
2. 第2次地域福祉活動計画の取組み状況
3. 北茨城市社会福祉協議会地域福祉推進委員会設置要項
4. 北茨城市社会福祉協議会地域福祉推進委員名簿

中郷町の汐見ヶ丘ニュータウン地区では、汐見ヶ丘近隣公園で夏休みラジオ体操を8月末まで開催しました。参加者は子どもから高齢者まで、毎日50～60人が参加し、地域ぐるみの活動となっております。

この活動は、地元の住民の方々が、汐見ヶ丘地区を健康な街であるようにしたいという想いから始められた活動です。



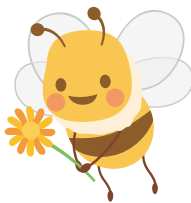
子どもたちは首からぶらさげた「ラジオ体操出席カード」にスタンプを押してもらい、とても嬉しそうでした。

参加された高齢者の方は、「子どもたちと一緒に体操をすると元気をもらえる」。また、小学生のお子さんを持つ保護者の方は、「子どもがなくなってしまったので、地域の方々とふれあえる大切な機会です」と話をされていました。

夏休みが終わって、子どもたちも去りましたが、健康寿命を延ばす取り組みとしてラジオ体操は現在も続けているそうです。

こうした取り組みを通じて、これからも世代をこえた地域ぐるみの交流が続くように応援しています。

＜＜生活支援体制整備事業＞＞



サークルJは、障がいを持つ方が自分らしく地域で暮らすために、障がいのない方たちとも気軽に集い、おしゃべりをしながら仲間づくりのできるふれあいサロンです。

サークルJでは、ボランティアの方々にも参加していただき、にぎやかに運動やゲームを通して交流を深めています。

その他にも、地域の環境美化活動として、大津子どもの家（旧中村医院）の周辺の草刈りも実施しました。

事前の申し込みなどはいりませんので、いつでもどなたでも気軽にお出かけ下さい。



＜＜サークルJ＞＞

1. 第2次地域福祉活動計画の取組み

第2次地域福祉活動計画では、進行管理を適切に行うために、「結づくりプラン取組み委員会」を設置いたしました。

取組み委員会は、社協支部、地域福祉団体、行政等の代表者から構成され、取組みの進捗よく状況の確認だけではなく、計画の推進に必要な地域での活動にも参加・協働していくことのできる委員会として、ワークショップ等に取り組んでまいりました。

平成30年度には、第2次地域福祉活動計画の進行管理と第3次地域福祉活動計画策定を担う「地域福祉推進委員会」を新たに設置いたしました。

また、計画の確実な実施及び適切な進行管理を行うため、職員ワーキングチームを設置いたしました。

ワーキングチームでは、取組み委員会に提出する資料の作成だけでなく、社協事業に関する意見交換などを実施してきました。

【会議の開催状況】

年度	月	会議名称	主な内容
27平成 年度	3月	第1回取組み委員会	地域福祉活動計画について
平成 28 年度	9月	第1回取組み委員会	支部の取組み状況報告 (支部活動を進める上での課題や困っていることなど)
	11月	職員アンケート(1回目)	活動計画の主な取組みを社協事業にあてはめ、事業内容の評価や改善点に関するアンケート
	1月	第2回取組み委員会	職員アンケートと同様に、社協事業の評価点や改善点を委員のワークショップにより意見聴取
	2月	職員アンケート(2回目)	職員、委員から出た評価点、改善点に対し、さらに良くなるような具体的な企画や工夫についてアンケート
	3月	第3回取組み委員会	職員アンケートと同様に、具体的な企画や工夫について委員のワークショップにより意見聴取
平成 29 年度	5月	職員ワーキングチーム	進行管理を行うため各部署から8名を選任し、職員の意見を反映させられるような体制
	7月	支部長等会議	支部活動を進める上での悩みや課題を支部委員も含め、意見を聴取
	//	第1回取組み委員会	H29. 3月で出た具体的な企画や工夫(取組み)を実行に移すため、区分ごとに分類
	12月	第2回取組み委員会	・H29. 7月の取組みをテーマ(分類)ごとにまとめ平成29年度からどのように取り組むか報告 ・学校が地域との交流としてどのようなことをしているのか報告を頂き、学校の先生と意見交換の実施
	3月	第3回取組み委員会	第2次の進行管理と第3次策定の機能を併せ持つ「地域福祉推進委員会」を4月より設置

平成30年度	7月	第1回地域福祉推進委員会	地域福祉活動計画について
	8月	支部長等会議 児童生徒の福祉活動に関する会議	支部の取組み状況報告（支部活動を進める上での課題や困っていることなど） 福祉・防災教育の紹介 学校と支部の意見交換
	11月	第2回地域福祉推進委員会	学校と支部が連携してできることのワークショップ
	1月	職員アンケート(3回目)	職員、委員から出た評価点、改善点に対し、さらに良くなるような具体的な企画や工夫についてアンケート
	3月	第3回地域福祉推進委員会	職員アンケートと同様に、社協事業の評価点や改善点を委員のワークショップにより意見聴取
	年10回	職員ワーキングチーム	結づくりプランに関することや社協事業に関することについて意見交換する



《ファミリーサポートセンター》



《中郷・磯原子どもの家》



《配食サービス》



2. 第2次地域福祉活動計画の取組み状況

基本目標1 みんなが主人公になれるまちづくり①

基本計画1	一人ひとりが福祉への理解を深め、「自助」「互助」「共助」の心を育てよう
取り組む方向1	感謝と思いやりの心を育てよう

PLAN (計画)

主な取組み1	福祉に関する研修会や講座に参加します
取り組む内容	福祉活動者以外にも関心をもって参加してもらえるよう、内容や周知の方法を工夫します。

年度ごとの取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強化		推進		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	防災ボランティア養成講座・小中学校での防災教育	3回 (16名)	3回 (26名)	4回(100名)	4回(100名)
	精神保健福祉講座	3回 (26名)	3回 (26名)	3回 (29名)	3回 (65名)
	ボランティア入門講座	3回 (33名)			
	福祉体験・世代間交流 (活動含む)		2回 (25名)	4回 (17名)	6回 (33名)
	防災講演会	1回(100名)	1回(100名)	1回(250名)	1回(250名)

CHECK (評価)

取組みに対するみんなの意見・アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○若い世代や退職した男性などの対象者を限定した講座の検討 ○講座受講者に対する継続的な支援 ○講座受講者に対する継続的な支援 ○ボランティア同士の (既存・新規) 交流や意見交換 ○専門的なボランティア、ボランティアリーダーの育成 ○社協だより、ホームページ以外の通知の仕方を検討	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○若い世代の参加 ○せっかくの広報紙が置いてあるだけで届いてない ○情報の提供には「口コミ」が大事 ○老人会に伝達を ○子どもと老人の交流 ○講座の後の交流会が大事なのでは… ○講座でグループ化、それ以後の集まるしかけをする ○講座で名札 (カタカナ、必要に応じた字名or大字)
--------------------	--	---

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○福祉体験・世代間交流の講座については、修了者に各学校に行ってもらい指導をしてもらった (活躍の場を提供) フォローアップ講座も開催し、継続的支援に努めた ○精神保健福祉講座は「障害者雇用支援講座」として、企業向けの内容も取り入れた。マンネリ化の是正を図る ○防災に関する講座は、NPO法人防災士会等と連携し小学校などでの防災教育も取り入れていった ○自主防災組織や学校等に直接、講座の開催案内を実施
----------------	--

基本目標1 みんなが主人公になれるまちづくり②

基本計画1	一人ひとりが福祉への理解を深め、「自助」「互助」「共助」の心を育てよう
取り組む方向1	感謝と思いやりの心を育てよう

PLAN (計画)

主な取組み2	地域福祉活動への参加をひろめます
取り組む内容	広報誌やホームページ等を活用して社協支部やボランティア等の福祉情報を提供していきます。

年度ごとの取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強化		推進		

DO (実行)

取組み概要	【平成27年度・平成28年度・平成29年度】 ○広報誌「社協だより」を年6回発行 (全戸配布) ○ホームページの運営管理	【平成30年度】 ○広報誌「社協だより」を年6回発行 (全戸配布) ○ホームページの運営管理 (情報更新を頻繁に実施) ○フェイスブックの開設 (R1.5.1現在 登録者10名)
-------	---	---

CHECK (評価)

取組みに対するみんなの意見・アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○ホームページの充実を図る (内容、デザイン、イベント情報) ○社協だより (広報誌) の配布場所を広げる ○ポスターやパンフレットによる事業PR ○直接出向いて情報を提供	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○若い世代の参加 ○せっかくの広報紙が置いてあるだけで届いてない ○情報の提供には「口コミ」が大事 ○老人会に伝達を ○子どもと老人の交流 ○講座の後の交流会が大事なのでは… ○講座でグループ化、それ以後の集まるしかけをする ○講座で名札 (カタカナ、必要に応じた字名or大字)
--------------------	--	---

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○実施した事業の報告記事を定期的に更新 ○社協だよりの配付場所として、新たに水戸信用金庫、常陽銀行を追加した ○企業、自主防災会、支部社協等関連する団体に直接通知案内をした ○ホームページがあることを周知 ○フェイスブックを開設したことを知らせるチラシを配布・ポスター掲示
----------------	--

基本目標 1 みんなが主人公になれるまちづくり③

基本計画 1	一人ひとりが福祉への理解を深め、「自助」「互助」「共助」の心を育てよう
取り組む方向 1	感謝と思いやりの心を育てよう

PLAN (計画)

主な取組み 3	「困った時はお互いさま」の意識を高めます				
取り組む内容	震災時に発揮された共助の意識を風化させないよう、支えあえる地域福祉活動を推進していきます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	推 進				

DO (実行)

取組み概要	・支部長等会議				
	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	支部長等会議の開催	1回 (14名)	1回 (7名)	1回 (21名)	1回 (15名)
	・地域訪問活動				
	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	地域訪問活動				21か所

※地域訪問活動とは、職員が地域で活動している団体やグループを訪問情報交換をする活動また、住民主体の活動を社協だよりに掲載し、広報をする

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○住民懇談会は継続して実施し、職員も参加する ○防災に関する事業の継続（市民の意識の啓発） ○社協支部との更なる連携・支援 ○地域の団体の把握及び協力体制の構築 ○把握した問題解決に協力する ○常会に入っていない近所の人との付き合い方、孤立している方への関わり方が重要	○若い世代の参加 ○せっかくの広報紙が置いてあるだけで届いてない ○情報の提供には「口コミ」が大事 ○老人会に伝達を ○子どもと老人の交流 ○講座の後の交流会が大事なのでは… ○講座でグループ化、それ以後の集まるしかけをする ○講座で名札（カタカナ、必要に応じた字名or大字）

ACTION (改善)

意見・ アイデアを 受けて取組み	○支部長等会議は、支部委員も含め多くの方に出席をいただき、多様な意見を求めた ○支部長等会議と小中学校の先生の会議を合同で実施 ○地域訪問活動として、市PTA連絡会や社会福祉団体に訪問し、社協PRやアンケート調査 ○小中学校の先生に、防災教育のメニュー紹介 ○住民主体の活動を社協だよりに掲載し、地域の皆さんに知らせる（3回実施）
------------------------	---

基本目標 1 みんなが主人公になれるまちづくり④

基本計画 1	一人ひとりが福祉への理解を深め、「自助」「互助」「共助」の心を育てよう
取り組む方向 2	福祉の心を育もう（家庭・学校・地域）

PLAN (計画)

主な取組み 1	親子で福祉について考える機会をつくります				
取り組む内容	親子で参加することができる講座を開催することにより、福祉について考える機会をつくります。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	子育てサロン	439名	486名	340名	
	中郷子どもの家	6,771名	7,714名	6,528名	5,887名
	磯原子どもの家				3,769名
	ファミリーサポートセンター	129名	106名	58名	55名
	福祉教育	3校(301名)	6校(173名)	5校(174名)	7校(404名)
	子育て応援イベント				3回(300名)

参加者数は延べ人数

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○ファミリーサポートセンター協力会員、子どもの家スタッフの専門性を高める ○事業PRの強化（社協だより、ホームページ、パンフレット） ○ニーズの発掘 ○企画の内容・対象者の再考（小学生・父親、親子など）	○学校へプログラムの提案を（例高齢者と学ぶ福祉学習） ○障害のあるなしにかかわらず、交流の場がもっとあれば良い ○子供と親と組織の結びつきが強いのはスポーツ少年団→「活動の場」を ○社会福祉大会での少年参加 ○子供たちにボランティア体験を ○全町開催の三世代運動会 ○「あいさつ」がいつでもいなくなるか ○地域老人会が学校の先生として参加

ACTION (改善)

意見・ アイデアを 受けて取組み	○ファミリーサポートセンター事業並びに会員募集を市の広報誌において実施するとともに個別のパンフレットを配布 ○子育て世代への事業展開（ハロウィンイベント、地域での夏祭り、子育て応援イベント等） ○福祉教育や子育てを応援してくれるボランティアの育成（ママ応援隊、福祉体験サポーター）
------------------------	--

基本目標 1 みんなが主人公になれるまちづくり⑤

基本計画 1	一人ひとりが福祉への理解を深め、「自助」「互助」「共助」の心を育てよう
取り組む方向 2	福祉の心を育もう（家庭・学校・地域）

PLAN（計画）

主な取組み 2	福祉教育推進のための連携を図ります				
取り組む内容	学校同士が、情報交換できるような場を設け、市内の福祉教育の推進を強化します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化			推 進	

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	福祉教育（車いす体験等）	3校(301名)	6校(173名)	5校(174名)	7校(404名)
	ワークキャンプ	36名	45名	41名	40名
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名

※児童・生徒の福祉活動に関する会議：学校と地域が連携して進めたいことや、地域が協力してできることについて意見交換

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○ワークキャンプの内容の再検討が必要 ○学校同士で情報交換できる場を設ける ○前年度の取組みを継続しながら福祉教育を推進していく ○各支部に小中学校の校長先生も加入してもらう	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○学校へプログラムの提案を 例高齢者と学ぶ福祉学習 ○障害のあるなしにかかわらず、交流の場がもっとあれば良い ○子供と親と組織の結びつきが強いのはスポーツ少年団→「活動の場」を ○社会福祉大会での少年参加 ○子供たちにボランティア体験を ○全町開催の三世代運動会 ○「あいさつ」がいつでも becoming ○地域老人会が学校の先生として参加
----------------------------	--	--

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○ワークキャンプの内容は毎年内容検討し変更 ○磯原郷英高校生徒との連携（社協事業への協力） ○児童生徒の福祉活動に関する会議では、支部社協委員にも参加を求め交流を図る
------------------------	---

基本目標 1 みんなが主人公になれるまちづくり⑥

基本計画 1	一人ひとりが福祉への理解を深め、「自助」「互助」「共助」の心を育てよう
取り組む方向 2	福祉の心を育もう（家庭・学校・地域）

PLAN（計画）

主な取組み 3	学校等が行う地域での福祉教育に協力します				
取り組む内容	社協から事業提案をしたり、地域の団体等が福祉教育に参加できるように支援していきます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化	推 進			

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	福祉教育（車いす体験等）	3校(301名)	6校(173名)	5校(174名)	7校(404名)
	三世代地域交流事業	342名	173名	180名	211名
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○学校で実施する総合的な学習、福祉教育事業提案用のパンフレットの作成 ○学校側の福祉教育ニーズ把握 ○福祉教育については、支部やボランティア等、多くの方の力を借りて実施 していく	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○学校へプログラムの提案を 例高齢者と学ぶ福祉学習 ○障害のあるなしにかかわらず、交流の場がもっとあれば良い ○子供と親と組織の結びつきが強いのはスポーツ少年団→「活動の場」を ○社会福祉大会での少年参加 ○子供たちにボランティア体験を ○全町開催の三世代運動会 ○「あいさつ」がいつでも becoming ○地域老人会が学校の先生として参加
----------------------------	---	---

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○福祉・防災教育に関するパンフレットを作成し学校に配布 ○児童生徒の福祉活動に関する会議では、支部社協委員にも参加を求め交流を図る ○福祉教育に関する取組みアンケート実施
------------------------	---

基本目標 1 みんなが主人公になれるまちづくり⑦

基本計画 1	一人ひとりが福祉への理解を深め、「自助」「互助」「共助」の心を育てよう
取り組む方向 3	参加の輪をひろげよう（ボランティアへの参加）

PLAN（計画）

主な取組み 1	ボランティア活動の拠点となるボランティアセンターを活用します				
取り組む内容	ボランティアに関する情報を強力に発信できるセンターの整備を図り、人が気軽に集まれるようにします。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	ボランティアに関する相談	116件	124件	117件	105件
	福祉機器の貸出し	130件	132件	115件	102件
	ボランティアグループ一覧の社協HP掲載			実施	実施
	社協だよりによりボランティアグループ紹介		実施	実施	実施
	社協が主体となったボランティア募集		実施	実施	実施

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○PRの工夫 （スーパーなどにも設置、ボランティアフェスティバルのようなイベントの開催） ○社協だよりの内容再検討 （ボランティア活動の様子、グループ紹介、若い世代への参加を促す） ○ボランティアグループ（活動内容や数）を一覧にし、ホームページに掲載 ○ボランティアセンターの整備強化（わかりやすく、交流が持てるスペースを設けるなど）	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○ボランティア（自分からすすんで）出席できる集まりに ○市の職員も参加→伝える必要があるが ○スポーツ少年団のボランティア参加 ○手話とか興味をもっても学ぶ場がない ○少年ボランティア ○退職してからボランティアの準備は現役のときから ○社員が講座に出やすいように会社に働きかけ

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○ボランティアフォーラムの開催（傾聴に関する講座、社協PV上映 約80名参加） ○ボランティア一覧のHP掲載、パンフレットの設置 ○社協主体のボランティア募集（ママ応援隊、福祉体験、レクリエーションスポーツ サークル）（障がい者サロン）
------------------------	--

基本目標 1 みんなが主人公になれるまちづくり⑧

基本計画 1	一人ひとりが福祉への理解を深め、「自助」「互助」「共助」の心を育てよう
取り組む方向 3	参加の輪をひろげよう（ボランティアへの参加）

PLAN（計画）

主な取組み 2	ボランティアに関する分かりやすい情報を発信します				
取り組む内容	広報誌の内容を更に充実させ、ボランティアなどの情報を発信していきます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化	推 進			

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	ボランティアグループ一覧の社協HP掲載			実施	実施
	社協だよりによりボランティアグループ紹介		実施	実施	実施
	社協が主体となったボランティア募集		実施		実施

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○情報発信の充実（写真などイメージしやすい情報の発信）組織体制の強化 ○ボランティアの活動支援 ○市民のニーズに合った新規講座を開催 ○若い世代のボランティア参加、個人のボランティアの体制づくり	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○ボランティア（自分からすすんで）出席できる集まりに ○市の職員も参加→伝える必要があるが ○スポーツ少年団のボランティア参加 ○手話とか興味をもっても学ぶ場がない ○少年ボランティア ○退職してからボランティアの準備は現役のときから ○社員が講座に出やすいように会社に働きかけ

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○ボランティアフォーラムの開催（傾聴に関する講座、社協PV上映 約80名参加） ○ボランティア一覧のHP掲載、パンフレットの設置 ○社協主体のボランティア募集（ママ応援隊、福祉体験、レクリエーションスポーツ サークル）（障がい者サロン）
------------------------	--

基本目標1 みんなが主人公になれるまちづくり⑨

基本計画1	一人ひとりが福祉への理解を深め、「自助」「互助」「共助」の心を育てよう
取り組む方向3	参加の輪をひろげよう（ボランティアへの参加）

PLAN（計画）

主な取組み3	ボランティア講座、研修会の場を設け意識を高めます				
取り組む内容	市民のニーズにあった内容を検討し、また活動者に対する継続したフォローアップを強化していきます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	防災ボランティア養成講座・小中学校での防災教育	3回（16名）	3回（26名）	4回（100名）	4回（100名）
	精神保健福祉講座	3回（26名）	3回（26名）	3回（29名）	
	ボランティア入門講座	3回（33名）			
	福祉体験・世代間交流（活動含む）		2回（25名）	4回（17名）	6回（33名）
	防災講演会	1回（100名）	1回（100名）	1回（250名）	1回（250名）

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○内容の再考（ニーズ調査、休日開催、学校ボランティアの講座など） ○講座開催後のフォローアップ（ボランティア活動の紹介） ○幅広い世代に参加してもらえるような工夫	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○ボランティア（自分からすすんで）出席できる集まりに ○市の職員も参加→伝える必要があるが ○スポーツ少年団のボランティア参加 ○手話とか興味をもっても学ぶ場がない ○少年ボランティア ○退職してからボランティアの準備は現役のときから ○社員が講座に出やすいように会社に働きかけ
----------------------------	--	--

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○福祉体験・世代間交流の講座については、修了者に各学校に行ってもらい指導をしてもらった（活躍の場を提供） フォローアップ講座も開催し、継続的支援に努めた ○精神保健福祉講座は「障害者雇用支援講座」として、企業向けの内容も取り入れた。マンネリ化の是正を図る ○防災に関する講座は、NPO法人防災士会等を連携し小学校などでの防災教育も取り入れていった ○自主防災組織や学校等に直接、講座の開催案内を実施
------------------------	---

基本目標2 みんなとともにいきるまちづくり①

基本計画1	助けあい・支えあいのまちづくりに活動する人や組織を育てよう
取り組む方向1	地域活動へ目を向けよう（情報の共有）

PLAN（計画）

主な取組み 1	誰でも地域活動に参加できるよう情報を提供します				
取り組む内容	地域・社協支部役員等と連携して参加できる地域活動の情報提供を強化していきます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化	推 進			

DO（実行）

取組み概要	【平成27年度・平成28年度・平成29年度】 ○広報誌「社協だより」を年6回発行（全戸配布） ○ホームページの運営管理 【平成30年度】 ○広報誌「社協だより」を年6回発行（全戸配布） ○ホームページの運営管理（情報更新を頻繁に実施） ○フェイスブックの開設（R1.5.1現在 登録者10名）
-------	--

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○社協支部活動のPR（パンフレット、支部だよりの作成・配布） ○支部活動の充実（支援の継続） ○地域活動の幅広い情報収集と提供 ○地域の協力者（支部会員）等の発掘	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○各支部で「支部だより」を年2回発行し、支部の活動を知ってもらうことによって、支部の活動が活発になるかも（2名） ○スーパーなどが集まる場所で、チラシ配りなど啓発活動 ○スマホやケイタイにアピールする ○地域行事の参加協力を積極的に参加する
----------------------------	---	--

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○実施した事業の報告記事を定期的に更新 ○社協だよりの配付場所として、新たに水戸信用金庫、常陽銀行を追加した ○企業、自主防災会、支部社協等関連する団体に直接通知案内をした ○ホームページがあることを周知 ○フェイスブック開設のチラシを配布・ポスター掲示
------------------------	---

基本目標2 みんなとともにいきるまちづくり②

基本計画1	助けあい・支えあいのまちづくりに活動する人や組織を育てよう
-------	-------------------------------

取り組む方向1	地域活動へ目を向けよう（情報の共有）
---------	--------------------

PLAN（計画）

主な取組み2	地域の団体等の活動内容の周知や仲間づくりに努めます
--------	---------------------------

取り組む内容	社協支部を中心にして、地域にある団体との相互理解により、横のつながりを強化していきます。
--------	--

年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強化		推進		

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	三世地地域交流事業	342名	173名	180名	211名
	支部長等会議の開催	1回(14名)	1回(7名)	1回(21名)	1回(15名)
	支部総会・勉強会・研修への参加	9回	9回	9回	9回
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○福祉団体の把握・活動内容の紹介 ○福祉団体の交流の場を拡充・情報の共有	○各支部で「支部だより」を年2回発行し、支部の活動を知ってもらうことによって、支部の活動が活発になるかも(2名) ○スーパーなど人が集まる場所で、チラシ配りなど啓発活動 ○スマホやケイタイにアピールする ○地域行事の参加協賛に積極的に参加する

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○地域の活動を把握するため、地域訪問活動を実施 ○住民主体の活動を広報誌で紹介
------------------------	--

基本目標2 みんなとともにいきるまちづくり③

基本計画1	助けあい・支えあいのまちづくりに活動する人や組織を育てよう
-------	-------------------------------

取り組む方向1	地域活動へ目を向けよう（情報の共有）
---------	--------------------

PLAN（計画）

主な取組み3	地域の団体との情報交換や交流を深め、活動の輪をひろげます
--------	------------------------------

取り組む内容	社協支部を中心にして、地域の団体と定期的に情報交換を図り、お互いの活動をひろげていきます。
--------	---

年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強化		推進		

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	三世地地域交流事業	342名	173名	180名	211名
	支部長等会議の開催	1回(14名)	1回(7名)	1回(21名)	1回(15名)
	支部総会・勉強会・研修への参加	9回	9回	9回	9回
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○各団体の連携の強化 ○福祉団体の把握（職員間での情報交換） ○交流や情報交換ができる場や機会の拡充	○各支部で「支部だより」を年2回発行し、支部の活動を知ってもらうことによって、支部の活動が活発になるかも(2名) ○スーパーなど人が集まる場所で、チラシ配りなど啓発活動 ○スマホやケイタイにアピールする ○地域行事の参加協賛に積極的に参加する

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○地域の活動を把握するため、地域訪問活動を実施 ○住民主体の活動を広報誌で紹介 ○支部委員と先生の情報交換の場を提供
------------------------	--

基本目標2 みんなとともにいきるまちづくり④

基本計画 1	助けあい・支えあいのまちづくりに活動する人や組織を育てよう				
取り組む方向 2	地域福祉活動を活性化しよう（社協支部の強化）				
P L A N（計画）					
主な取組み 1	地域のニーズを把握するため、住民懇談会を開催します				
取り組む内容	社協支部の協力を得ながら、住民懇談会を開催し、地域にある身近な課題を把握します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	推 進				

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	支部長等会議の開催	1回(14名)	1回(7名)	1回(21名)	1回(15名)
	支部総会・勉強会・研修への参加	9回	9回	9回	9回
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○住民懇談会の開催を広くPR（参加者を増やす、幅広い参加者の確保、職員の参加） ○支部強化に協力する ○課題の把握（少数意見にも耳を傾ける）と解決に向け検討	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○声かけ隊の学校との連携を図り、安全も考慮するのと、そのグッズを作る ○会員の増加を図り、理解を得る ○施設訪問をして、地域とのかかわりを深めてもらう ○支部の全体会を開催をする ○ボランティア精神の向上をはかる ○事前告知を徹底する ○全支部で取り組める事業は何かないか

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○支部活動を広報誌に紹介 ○社協会費の目的・趣旨を広報誌に掲載
------------------------	------------------------------------

基本目標2 みんなとともにいきるまちづくり⑤

基本計画 1	助けあい・支えあいのまちづくりに活動する人や組織を育てよう				
取り組む方向 2	地域福祉活動を活性化しよう（社協支部の強化）				
P L A N（計画）					
主な取組み 2	地域での見守り活動をすすめます（ご近所声かけ隊等）				
取り組む内容	市民誰もが、参加できる活動であることを周知しながら、引き続き支援します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	配食サービス事業	12,235食	10,913食	9,939食	9,625食
	支部総会・勉強会・研修への参加	9回	9回	9回	9回
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○見守り活動、配食サービスの更なる周知（PR、社協だより） ○学校からの意見、活動者と学校との交流の把握 ○ボランティア等の確保 ○配食サービスに代わる、新たな見守り活動の実施	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○声かけ隊の学校との連携を図り、安全も考慮するのと、そのグッズを作る ○会員の増加を図り、理解を得る ○施設訪問をして、地域とのかかわりを深めてもらう ○支部の全体会を開催をする ○ボランティア精神の向上をはかる ○事前告知を徹底する ○全支部で取り組める事業は何かないか

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○配食サービス事業を広報誌に掲載 ○地域団体の集まりなどで配食ボランティアの募集 ○支部活動を広報誌に掲載 ○児童生徒の福祉活動に関する会議において、学校の意見を聴く機会を設ける
------------------------	--

基本目標2 みんなとともにいきるまちづくり⑥

基本計画1	助けあい・支えあいのまちづくりに活動する人や組織を育てよう
取り組む方向2	地域福祉活動を活性化しよう（社協支部の強化）

PLAN（計画）

主な取組み 3	社協支部で地域での課題や住民ニーズに取組みます				
取り組む内容	住民懇談会で出された具体的な課題に対して、できることから社協支部で取組みます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	推 進				

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	支部長等会議の開催	1回(14名)	1回(7名)	1回(21名)	1回(15名)
	支部総会・勉強会・研修への参加	9回	9回	9回	9回
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○支部との連携強化 ○支部活動の支援 ○担当者以外の職員も支部の大事さを認識する ○情報の共有（意見交換会など）	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○声かけ隊の学校との連携を図り、安全も考慮するのと、そのグッズを作る ○会員の増加を図り、理解を得る ○施設訪問をして、地域とのかわりを深めてもらう ○支部の全体会を開催をする ○ボランティア精神の向上をはかる ○事前告知を徹底する ○全支部で取り組める事業は何かないか
----------------------------	--	--

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	【平成31年度】 ○地域の活動を把握するため、地域訪問活動を実施 ○住民主体の活動を広報誌で紹介 ○地域団体の把握方法を検討
------------------------	--

基本目標2 みんなとともにいきるまちづくり⑦

基本計画1	助けあい・支えあいのまちづくりに活動する人や組織を育てよう
取り組む方向3	地域で交流をもとう（たまり場づくり、サロン活動）

PLAN（計画）

主な取組み 1	ご近所で気軽に集まります（お茶飲みします）				
取り組む内容	日頃からのご近所づきあいの第一歩である「お茶飲み」活動を地域ですすめます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	推 進				

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	高齢者サロン	2,633名	3,764名	4,257名	4,271名
	高齢者サロンリーダー研修	27名	25名	23名	31名

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○サロン開催のない地域への支援 ○サロン協力者の育成（企業、NPO法人、若い世代など） ○ニーズの把握と周知、内容の再検討 ○利用者を増やす（参加しやすい雰囲気づくり） ○地域の方々为主体となって活動できるよう方向づける	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○シルバーリハビリ体操で健康な（高齢者）を増加させる ○各団体との連携、各支部も含め ○全体的にアピール不足なので、その改善を図る ○各団体との連携を図り、社協がまとめて運営する ○常会を巻き込む ○各支部の温度差があるので、支部の意識の向上を図る
----------------------------	---	--

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○高齢者サロン事業を広報誌に掲載 ○高齢者サロン活動紹介 ○新たなサロンの立ち上げ（関本地区） ○サロン内容の充実（女性消防団、シルバーリハビリ、歯科衛生士） ○サロンリーダー研修に支部の方も呼び掛ける
------------------------	---

基本目標2 みんなとともにいきるまちづくり⑧

基本計画1	助けあい・支えあいのまちづくりに活動する人や組織を育てよう
取り組む方向3	地域で交流をもとう（たまり場づくり、サロン活動）

PLAN（計画）

主な取組み2	地域の中で世代間交流の機会をつくります				
取り組む内容	社協支部と学校の連携。また、地域の団体の協力体制により交流活動をすすめます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	三世代地域交流事業	342名	173名	180名	211名
	支部長等会議の開催	1回(14名)	1回(7名)	1回(21名)	1回(15名)
	支部総会・勉強会・研修への参加	9回	9回	9回	9回
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○学校と各支部の連携・支援 ○地域に合った活動の支援 ○意見交換の機会拡充 ○世代間交流の機会を増やす	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○シルバーハビリティ体操で健康な（高齢者）を増加させる ○各団体との連携、各支部も含め ○全体的にアピール不足なので、その改善を図る ○各団体との連携を図り、社協がまとめて運営する ○常会を巻き込む ○各支部の温度差があるので、支部の意識の向上を図る
----------------------------	---	---

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○支部活動を広報誌に紹介 ○地域の活動を把握するため、地域訪問活動を実施 ○住民主体の活動を広報誌で紹介 ○学校と支部の話し合う場を設けた
------------------------	--

基本目標2 みんなとともにいきるまちづくり⑨

基本計画1	助けあい・支えあいのまちづくりに活動する人や組織を育てよう
取り組む方向3	地域で交流をもとう（たまり場づくり、サロン活動）

PLAN（計画）

主な取組み3	高齢者や子育て等のサロン活動を支援します				
取り組む内容	社協支部やボランティア等多くの方と協力しながら、必要とする地域でサロン活動を展開していきます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強化	推進			

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	高齢者サロン	2,633名	3,764名	4,257名	4,271名
	子育てサロン	439名	486名	340名	
	高齢者サロンリーダー研修	27名	25名	23名	31名
	子育て応援イベント				3回(300名)

※子育て応援イベントとして、夏祭り、ハロウィン、おさがりとりかえっこの3事業を新たに実施

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○福祉関係団体との連携 ○サロン協力者の育成（企業やNPO法人） ○特色を生かしたサロン運営（多様性）	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○シルバーハビリティ体操で健康な（高齢者）を増加させる ○各団体との連携、各支部も含め ○全体的にアピール不足なので、その改善を図る ○各団体との連携を図り、社協がまとめて運営する ○常会を巻き込む ○各支部の温度差があるので、支部の意識の向上を図る
----------------------------	--	---

ACTION（改善）

意見・ アイデアを 受けて取組み	○サロンリーダー研修に支部の方も呼び掛ける ○高齢者サロン事業を広報誌に掲載 ○高齢者サロン活動紹介 ○新たなサロンの立ち上げ（関本地区） ○サロン内容の充実
------------------------	---

基本目標3 みんなが安心して暮らせるまちづくり①

基本計画 1	生きがいづくりや地域の見守り・助けあい活動をすすめよう				
取り組む方向 1	災害に対して安心できる地域づくりをしよう				
P L A N （計画）					
主な取組み 2	日頃から災害に対する意識を持ちます				
取り組む内容	もしものときのために、連絡先や貴重品などを管理し、万が一の災害に備えます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	検 討		実 施		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	防災講演会	100名	140名	250名	250名
	防災ボランティア養成講座・防災教育	16名	124名	100名	160名
	女性消防団との連携				16回

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○講演会、講座、啓発活動を継続していく ○PRの強化（学校にも募集をかけるなど）	○顔の見える関係を作る必要がある、各地区で防災マップ作りをする ○災害とはいつても地震か、水害か、津波か、火災か、違いと対応を明確にする ○3.11を忘れないための行事を継続して実施していくことが大切、各地区ごとに ○「社協だより」の有効活用 ○地域全体の危険・災害の発生しやすい箇所の把握 ○地域全体住民が参加できる行事を実施する ○災害毎の避難連絡方法を明確にする ○防災ボランティア講座について反省すべき点（開催案内を詳しく説明、今回は人員数にて標記がなかった、目標数をわかりやすく） ○各地区で避難経路の確認をする。町の人達に呼びかけ共に話し合い実行する場で作っていく必要がある ○区長、防犯協会、青少年育成会等、合同会議の開催 ○防災ボランティア講座は良い経験になると思うので多く続けた方がよい

ACTION (改善)

意見・ アイデアを 受けて取組み	○自主防災組織に直接事業案内 ○防災教育メニューを学校に紹介 ○女性消防団に高齢者サロンにおいて防災の講話をしてもらった
------------------------	--

基本目標3 みんなが安心して暮らせるまちづくり②

基本計画 1	生きがいづくりや地域の見守り・助けあい活動をすすめよう				
取り組む方向 1	災害に対して安心できる地域づくりをしよう				
P L A N（計画）					
主な取組み 2	「まち点検」を行い、危険箇所の解消に努めます				
取り組む内容	学校やPTA等と連携して、通学路などの危険箇所マップを作成し、地域に配布します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	推 進				

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	防災講演会	100名	140名	250名	250名
	防災ボランティア養成講座・防災教育	16名	124名	100名	160名

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○各関係機関と連携を図り実施する（学校やPTA、支部、ボランティア、高齢者クラブなど） ○地域の方々の情報を反映させられるような形で事業を実施する	○顔の見える関係を作る必要がある、各地区で防災マップ作りをする ○災害とはいつても地震か、水害か、津波か、火災か、違いと対応を明確にする ○3.11を忘れないための行事を継続して実施していくことが大切、各地区ごとに ○「社協だより」の有効活用 ○地域全体の危険・災害の発生しやすい箇所の把握 ○地域全体住民が参加できる行事を実施する ○災害毎の避難連絡方法を明確にする ○防災ボランティア講座について反省すべき点（開催案内を詳しく説明、今回は人員数にて標記がなかった、目標数をわかりやすく） ○各地区で避難経路の確認をする。町の人達に呼びかけ共に話し合い実行する場で作っていく必要がある ○区長、防犯協会、青少年育成会等、合同会議の開催 ○防災ボランティア講座は良い経験になると思うので多く続けた方がよい

ACTION (改善)

意見・ アイデアを 受けて取組み	○自主防災組織に直接事業案内 ○防災教育メニューを学校に紹介
------------------------	---

基本目標3 みんなが安心して暮らせるまちづくり③

基本計画1	生きがいづくりや地域の見守り・助けあい活動をすすめよう
-------	-----------------------------

取り組む方向1	災害に対して安心できる地域づくりをしよう
---------	----------------------

PLAN (計画)

主な取組み3	災害時における地域での助けあいの仕組みづくりに努めます
--------	-----------------------------

取り組む内容	災害時、住民一人ひとりが役割を持ち、お互いに支えあえる仕組みを検討します。
--------	---------------------------------------

年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	検 討		実 施		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	防 災 講 演 会	100名	140名	250名	250名
	防災ボランティア養成講座・防災教育	16名	124名	100名	160名

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○地域の避難できない方への支援方法を検討 ○地域のつながり、声かけができる仕組みづくり（イベント、サロンの開催） ○PR方法の工夫	○顔の見える関係を作る必要がある、各地区で防災マップ作りをする ○災害とはいつても地震か、水害か、津波か、火災か、違いと対応を明確にする ○3.11を忘れないための行事を継続して実施していくことが大切、各地区ごとに ○「社協だより」の有効活用 ○地域全体の危険・災害の発生しやすい箇所の把握 ○地域全体住民が参加できる行事を実施する ○災害時の避難連絡方法を明確にする ○防災ボランティア講座について反省すべき点（開催案内を詳しく説明、今回は人員数にて標記がなかった、目標数をわかりやすく） ○各地区で避難経路の確認をする。町の人達に呼びかけ共に話し合い実行する場で作っていく必要がある ○区長、防犯協会、青少年育成会等、合同会議の開催 ○防災ボランティア講座は良い経験になると思うので多く続けた方がよい

ACTION (改善)

意見・ アイデアを 受けて取組み	○自主防災組織に直接事業案内 ○防災教育メニューを学校に紹介
------------------------	---

基本目標3 みんなが安心して暮らせるまちづくり④

基本計画1	生きがいづくりや地域の見守り・助けあい活動をすすめよう
-------	-----------------------------

取り組む方向2	子どもや高齢者が元気に暮らせるまちづくりをしよう
---------	--------------------------

PLAN (計画)

主な取組み1	子育てをサポートする仕組みを充実させます
--------	----------------------

取り組む内容	中郷子どもの家やファミリーサポートセンターなどの活動をPRし、子育て家庭を応援します。
--------	---

年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	子 育 て サ ロ ン	439名	486名	340名	
	中 郷 子 ど も の 家	6,771名	7,714名	6,528名	5,887名
	磯 原 子 ど も の 家				3,769名
	ファミリーサポートセンター	129名	106名	58名	55名
	福 祉 教 育	3校(301名)	6校(173名)	5校(174名)	7校(404名)
	子 育 て 応 援 イ ベ ント				3回(300名)

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○ファミリーサポートセンター協力会員や子どもの家スタッフの専門性を高める ○広報活動の継続と内容の再検討（社協だより、ホームページ） ○利用者の利便性に応えるため、協力会員を増やす	○支部の現状を理解した上で活動すべき ○支部の委員との意見交換会を密にすべき→支部員の考えを聞くため ○広報活動の活性化を促進してほしい、これまで少なかった ○支部の活動実態把握に努めてほしい、支部まかせでなく ○伝統行事（神社、みこし、盆踊り）で子供、大人、地域のコミュニティを作るのがよいが、子供会がなくなり集めるのが難しい ○子育て中の親の交流の場をつくり、友達づくりを推進する必要がある ○学校との連携で子供を地域の行事に参加させるようにしたい ○健康体操を（高齢者）毎日実施する（広場に集まり）、中国では実施 ○各支部の活動が良く理解されていない、社協がまとめその内容をフィードバックして互いに活性化を図るべきではないか？

ACTION (改善)

意見・ アイデアを 受けて取組み	○ファミリーサポートセンター事業並びに会員募集を市の広報誌において実施するとともに個別のパンフレットを配布 ○子育て世代への事業展開（ハロウィンイベント、地域での夏祭り、子育て応援イベント等） ○福祉教育や子育てを応援してくれるボランティアの育成（ママ応援隊、福祉体験サポーター）
------------------------	--

基本目標3 みんなが安心して暮らせるまちづくり⑤

基本計画 1	生きがいづくりや地域の見守り・助けあい活動をすすめよう				
取り組む方向 2	子どもや高齢者が元気に暮らせるまちづくりをしよう				
P L A N （計画）					
主な取組み 2	イベントに子どもや高齢者が参加しやすい工夫をします				
取り組む内容	子どもや高齢者が楽しめる内容を検討し、地域での世代間交流事業を実施します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化	推 進			

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	福祉教育	3校(301名)	6校(173名)	5校(174名)	7校(404名)
	三世代地域交流事業	342名	173名	180名	211名
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名
	三世代の集い事業	3回(398名)	3回(428名)	2回(307名)	2回(301名)

CHECK (評価)

取組みに対するみんなの意見・アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○内容の再考（マンネリ化防止、各世代のニーズを集約） ○地域での世代間交流事業の支援	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○支部の現状を理解した上で活動すべき ○支部の委員との意見交換会を密にすべき→支部員の考えを聞くため ○広報活動の活性化を促進してほしい、これまで少なかった ○支部の活動実態把握に努めてほしい、支部まかせでなく ○伝統行事（神社、みこし、盆踊り）で子供、大人、地域のコミュニティを作るのがよいが、子供会がなくなり集めるのが難しい ○子育て中の親の交流の場をつくり、友達づくりを推進する必要がある ○学校との連携で子供を地域の行事に参加させるようにしたい ○健康体操を（高齢者）毎日実施する（広場に集まり）、中国では実施 ○各支部の活動が良く理解されていない、社協がまとめその内容をフィードバックして互いに活性化を図るべきではないか？

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○高齢者のための講座（生きがい講座）の開催 ○レクリエーションメニュー紹介のためのパンフレット作成 ○社協が主催する三世代の集い事業の内容を変更	○高齢者のための講座（生きがい講座）に関するアンケート実施
----------------	--	-------------------------------

基本目標3 みんなが安心して暮らせるまちづくり⑥

基本計画 1	生きがいづくりや地域の見守り・助けあい活動をすすめよう				
取り組む方向 2	子どもや高齢者が元気に暮らせるまちづくりをしよう				
P L A N（計画）					
主な取組み 3	介護予防のための生きがい講座などを充実させます				
取り組む内容	参加者の意見や市民のニーズを反映しながら、必要な生きがい講座を実施します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化	推 進			

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	福祉教育	3校(301名)	6校(173名)	5校(174名)	7校(404名)
	三世代地域交流事業	342名	173名	180名	211名
	児童生徒の福祉活動に関する会議				14名
	生きがい対策事業	8,442名	8,632名	8,943名	8,960名

CHECK (評価)

取組みに対するみんなの意見・アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○講座の実施場所を増やす ○内容の多様化、参加者も増加傾向にあるのでこのまま進める ○市民ニーズ調査の実施 ○送迎の検討（高齢者の移送手段がない）	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○支部の現状を理解した上で活動すべき ○支部の委員との意見交換会を密にすべき→支部員の考えを聞くため ○広報活動の活性化を促進してほしい、これまで少なかった ○支部の活動実態把握に努めてほしい、支部まかせでなく ○伝統行事（神社、みこし、盆踊り）で子供、大人、地域のコミュニティを作るのがよいが、子供会がなくなり集めるのが難しい ○子育て中の親の交流の場をつくり、友達づくりを推進する必要がある ○学校との連携で子供を地域の行事に参加させるようにしたい ○健康体操を（高齢者）毎日実施する（広場に集まり）、中国では実施 ○各支部の活動が良く理解されていない、社協がまとめその内容をフィードバックして互いに活性化を図るべきではないか？

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○高齢者のための講座（生きがい講座）の開催 ○高齢者のための講座（生きがい講座）に関するアンケート実施 ○レクリエーションメニュー紹介のためのパンフレット作成
----------------	---

基本目標3 みんなが安心して暮らせるまちづくり⑦

基本計画1	生きがいがつくりや地域の見守り・助けあい活動をすすめよう
取り組む方向3	障がい児・者が暮らしやすいまちづくりをしよう

PLAN (計画)

主な取組み 1	気軽に「あいさつ」できる関係づくりをします				
取り組む内容	特別な存在ではなく、地域の一員として、気軽に「あいさつ」することから関係づくりに努めます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	障害者相談支援	425名	479名	368名	411名
	サークルJ (障害者サロン)	162名	129名	123名	118名
	精神保健福祉講座	3回(26名)	3回(26名)	3回(29名)	3回(65名)

CHECK (評価)

取組みに対するみんなの意見・アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○「あいさつ」の重要性を広める ○PRの強化 (作文や絵画などの発表会、シール配布)	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○車イス体験等が大切、実際に町に出て体感すべき ○障害者の感じている思いに耳を傾ける講座等を開催する ○障害を理解することが大切、障害について勉強することが大切 ○あいさつの重要性について支部では一つの取り組み実施、一番大事な行政や学校又は各団体の重要性について周知を図ると良いのではないかと相互理解を高める ○障害者の存在が掘めない、どうしたら掘めるのか社協としての考えを聞きたい、どう周知を図るか ○障害者は一般の人が対応しづらい ○ケアシステムの充実を図る ○地域でコミュニティが崩壊しているため、今後どうすべきか社協と支部での意見交換会を ○障害は人ごとではない

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○あいさつから始まる北茨城物語を活動のあいことばとして普及をはかる
----------------	-----------------------------------

基本目標3 みんなが安心して暮らせるまちづくり⑧

基本計画1	生きがいがつくりや地域の見守り・助けあい活動をすすめよう
取り組む方向3	障がい児・者が暮らしやすいまちづくりをしよう

PLAN (計画)

主な取組み2	障がい児・者のニーズ把握に努めます				
取り組む内容	地域で安心して生活していくために必要な支援を考えます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	障害者相談支援	425名	479名	368名	411名
	サークルJ (障害者サロン)	162名	129名	123名	118名
	精神保健福祉講座	3回(26名)	3回(26名)	3回(29名)	3回(65名)

CHECK (評価)

取組みに対するみんなの意見・アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○サービス利用に至らない方への支援 ○多様な方々にも対応できる相談窓口がある とよい ○事業のPR (関係機関へ案内、広報誌、ホームページ) ○ニーズ実現に向けた検討と地域のつながりの強化	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○車イス体験等が大切、実際に町に出て体感すべき ○障害者の感じている思いに耳を傾ける講座等を開催する ○障害を理解することが大切、障害について勉強することが大切 ○あいさつの重要性について支部では一つの取り組み実施、一番大事な行政や学校又は各団体の重要性について周知を図ると良いのではないかと相互理解を高める ○障害者の存在が掘めない、どうしたら掘めるのか社協としての考えを聞きたい、どう周知を図るか ○障害者は一般の人が対応しづらい ○ケアシステムの充実を図る ○地域でコミュニティが崩壊しているため、今後どうすべきか社協と支部での意見交換会を ○障害は人ごとではない

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○精神保健福祉講座は、障害者の雇用支援講座に内容変更 ○サークルJでは、ボランティアの育成 ○ワークキャンプにおいて、街に出ての車いす体験の実施 ○相談支援事業所として利用者の計画を作成
----------------	--

基本目標3 みんなが安心して暮らせるまちづくり⑨

基本計画1	生きがいづくりや地域の見守り・助けあい活動をすすめよう
取り組む方向3	障がい児・者が暮らしやすいまちづくりをしよう

PLAN (計画)

主な取組み 3	専門機関を含めた地域でのネットワーク体制をつくります				
取り組む内容	地域で解決できない課題を専門機関につなげて、生活を支えるネットワークをつくります。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	推 進				

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	障害者相談支援	425名	479名	368名	411名
	地域ケアシステム（チーム数）	267チーム	267チーム	270チーム	276チーム

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○関係機関や職員間の情報の共有と連携、意見交換 ○ケアシステム会議の頻度と内容の検討 ○ネットワークの拡大	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○車イス体験等が大切、実際に町に出て体感すべき ○障害者の感じている思いに耳を傾ける講座等を開催する ○障害を理解することが大切、障害について勉強することが大切 ○あいさつの重要性について支部では一つの取り組み実施、一番大事な行政や学校又は各団体の重要性について周知を図ると良いのではないかと相互理解を高める ○障害者の存在が掴めない、どうしたら掴めるのか社協としての考えを聞きたい、どう周知を図るか ○障害者は一般の人が対応しづらい ○ケアシステムの充実を図る ○地域でコミュニティが崩壊しているため、今後どうすべきか社協と支部での意見交換会を ○障害は人ごとではない
----------------------------	--	--

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○相談支援事業所として利用者の計画を作成 ○地域ケア会議を通して多機関との連携を図る ○地域ケア会議の中で障害に対する住民への学習会（勉強会）を開催 ○障害者雇用支援講座を開催、企業や障害者雇用支援センター等、他機関と連携を図る
----------------	---

基本目標4 みんなですすめるまちづくり①

基本計画1	地域福祉の担い手や団体を支援・育成する活動をしよう
取り組む方向1	人を育てよう（人材の育成）

PLAN (計画)

主な取組み 1	地域で活躍してくれる新たな担い手を養成します				
取り組む内容	さまざまな人が、地域で取組むことができる活動を発見できる研修会等を実施します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	防災ボランティア養成講座・小中学校での防災教育	3回（16名）	3回（26名）	4回（100名）	4回（100名）
	精神保健福祉講座	3回（26名）	3回（26名）	3回（29名）	
	ボランティア入門講座	3回（33名）			
	福祉体験・世代間交流（活動含む）		2回（25名）	4回（17名）	6回（33名）
	防災講演会	1回（100名）	1回（100名）	1回（250名）	1回（250名）

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○広報活動の充実（社協だより、ホームページ） ○新たな人材の発掘（特に若い世代、男性） ○開催時期、内容の再検討（活動者の意見を取り入れる、市民のニーズに合った内容）	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○三世帯地域交流事業では学校と米作りや昔遊びをする ○三世帯地域交流事業の回数を増やしてほしい（季節ごとに） ○体験した人の話を聞く ○老人会に声をかけ、防災ボランティア講座を行う ○公民館活動、PTA活動等の育成と連携 ○高齢者が指導する技術を伝達するための活動（農作業、工作、修理、料理など） ○福祉の幅が広いので、リーダー研修会も部門別に、おもしろい研修会で参加しやすく ○身近にいる人、資源を使った体験談を話してもらう
----------------------------	--	---

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○福祉体験・世代間交流の講座については、修了者に各学校に行ってもらい指導をしてもらった（活躍の場を提供） ○フォローアップ講座も開催し、継続的支援に努めた ○精神保健福祉講座は「障害者雇用支援講座」として、企業向けの内容も取り入れてマンネリ化の是正を図った ○防災に関する講座は、NPO法人防災士会等を連携し小学校などでの防災教育も取り入れていった ○自主防災組織や学校等に直接、講座の開催案内を実施
----------------	--

基本目標4 みんなですすめるまちづくり②

基本計画1	地域福祉の担い手や団体を支援・育成する活動をしよう
取り組む方向1	人を育てよう（人材の育成）

PLAN（計画）

主な取組み 2	知識や技術を生かす機会をつくります				
取り組む内容	高齢者が持っている特技などを、次世代へつなげることのできる講座等を開催します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	三世地域交流事業	342名	173名	180名	211名

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○現在実施しているところ以外での実施 ○各地域の三世地域交流事業の内容の把握と紹介 ○講師、受講者のニーズを把握	○三世地域交流事業では学校と米作りや昔遊びをする ○三世地域交流事業の回数を増やしてほしい（季節ごとに） ○体験した人の話を聞く ○老人会に声をかけ、防災ボランティア講座を行う ○公民館活動、PTA活動等の育成と連携 ○高齢者が指導する技術を伝達するための活動（農作業、工作、修理、料理など） ○福祉の幅が広いので、リーダー研修会も部門別に、おもしろい研修会で参加しやすく ○身近にいる人、資源を使った体験談を話してもらおう

ACTION（改善）

意見・アイデアを受けて取組み	○小学校で実施される「昔遊び体験」「世代間交流事業」に参加
----------------	-------------------------------

基本目標4 みんなですすめるまちづくり③

基本計画1	地域福祉の担い手や団体を支援・育成する活動をしよう
取り組む方向1	人を育てよう（人材の育成）

PLAN（計画）

主な取組み 3	地域福祉活動をすすめるためのリーダーを育成します				
取り組む内容	地域のリーダーが積極的に活動できるように研修会等を開催します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化	推 進			

DO（実行）

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	社協が主体となったボランティアの募集			実施	実施
	防災ボランティア養成講座・小中学校での防災教育	3回（16名）	3回（26名）	4回（100名）	4回（100名）
	精神保健福祉講座	3回（26名）	3回（26名）	3回（29名）	3回（65名）
	ボランティア入門講座	3回（33名）			
	福祉体験・世代間交流（活動含む）		2回（25名）	4回（17名）	6回（33名）

CHECK（評価）

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】	【取組み委員会の意見・アイデア】
	○人材の確保（つながりを持つ） ○研修会の実施（目的ごとに） ○講座の受講生が活躍できる場を作る ○若い世代との連携	○三世地域交流事業では学校と米作りや昔遊びをする ○三世地域交流事業の回数を増やしてほしい（季節ごとに） ○体験した人の話を聞く ○老人会に声をかけ、防災ボランティア講座を行う ○公民館活動、PTA活動等の育成と連携 ○高齢者が指導する技術を伝達するための活動（農作業、工作、修理、料理など） ○福祉の幅が広いので、リーダー研修会も部門別に、おもしろい研修会で参加しやすく ○身近にいる人、資源を使った体験談を話してもらおう

ACTION（改善）

意見・アイデアを受けて取組み	○社協が主体となった多様なボランティアの募集 ○ボランティア講座の内容変更 ○フォローアップ講座の開催
----------------	---

基本目標4 みんなですすめるまちづくり④

基本計画 1	地域福祉の担い手や団体を支援・育成する活動をしよう				
取り組む方向 2	地域の支えあう力を高めよう				
P L A N （計画）					
主な取組み 1	市民の参加をすすめて地域福祉活動を充実させます				
取り組む内容	地域での活動に多くの市民が参加できるように、PR活動や事業の内容等を充実させます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	推 進				

DO (実行)

取組み概要	【平成27年度・平成28年度・平成29年度】 ○広報誌「社協だより」を年6回発行（全戸配布） ○ホームページの運営管理	【平成30年度】 ○広報誌「社協だより」を年6回発行（全戸配布） ○ホームページの運営管理（情報更新を頻繁に実施） ○フェイスブックの開設（R1.5.1現在 登録者10名）
-------	--	--

CHECK (評価)

取組みに対するみんなの意見・アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○PR活動の工夫（ポスター、広報誌、ホームページ） ○講座参加者へのフォローアップ ○情報の収集 ○地域福祉活動に関心を持ってもらう（参加しやすい環境づくり）	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○活動の規模を大きく考えず、むこう三軒両隣、お茶のみ談笑会、責任者を置かず ○各イベント等（市民祭・雨情祭）で広くPRする（呼びかけをする） ○PRの強化（学校・福祉施設等） ○取り組んでいない地域での実施 ○10年後の自分をイメージさせる ○子供を育てるのは親の責任と怒っている親がいる事に気付いた ○「声かけ・あいさつ」大切だと気付いた ○社協支部はコミュニティの形が崩れつつあり、声をかけても参加者が少ない ○どうしても市社協に頼ってしまう ○市社協に期待大です ○小規模な座談会の開催
--------------------	---	---

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○実施した事業の報告記事を定期的に更新 ○社協だよりの配付場所として、新たに水戸信用金庫、常陽銀行を追加した ○企業、自主防災会、支部社協等関連する団体に直接通知案内をした ○ホームページがあることを周知 ○フェイスブック開設したチラシを配布
----------------	---

基本目標4 みんなですすめるまちづくり⑤

基本計画 1	地域福祉の担い手や団体を支援・育成する活動をしよう				
取り組む方向 2	地域の支えあう力を高めよう				
P L A N （計画）					
主な取組み 2	近所や地域との「かかわり」を大切にします				
取り組む内容	安心して生活するために必要な、「遠くの親戚より近くの他人」の精神の復活に努めます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	高 齢 者 サ ロ ン	2,633名	3,764名	4,257名	4,271名
	子 育 て サ ロ ン	439名	486名	340名	
	高齢者サロンリーダー研修	27名	25名	23名	31名

CHECK (評価)

取組みに対するみんなの意見・アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○サロンに参加できない人への支援（未実施地域での開催） ○多くのボランティアの参加、育成 ○支援の継続と地域の中で開催できるようにする ○サロン内容の充実を図る	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○活動の規模を大きく考えず、むこう三軒両隣、お茶のみ談笑会、責任者を置かず ○各イベント等（市民祭・雨情祭）で広くPRする（呼びかけをする） ○PRの強化（学校・福祉施設等） ○取り組んでいない地域での実施 ○10年後の自分をイメージさせる ○子供を育てるのは親の責任と怒っている親がいる事に気付いた ○「声かけ・あいさつ」大切だと気付いた ○社協支部はコミュニティの形が崩れつつあり、声をかけても参加者が少ない ○どうしても市社協に頼ってしまう ○市社協に期待大です ○小規模な座談会の開催
--------------------	--	---

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○サロンリーダー研修に支部の方も呼び掛ける ○高齢者サロン事業を広報誌に掲載 ○高齢者サロン活動紹介 ○新たなサロンの立ち上げ（関本地区） ○サロン内容の充実
----------------	---

基本目標4 みんなですすめるまちづくり⑥

基本計画1	地域福祉の担い手や団体を支援・育成する活動をしよう				
取り組む方向2	地域の支えあう力を高めよう				
PLAN（計画）					
主な取組み3	さまざまな機関・団体との連携で地域の活動をサポートします				
取り組む内容	地域づくりを社協支部任せにせず、地域の団体等と連携してすすめられるよう支援します。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度 強化	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
		推進			
DO（実行）					
取組み概要	【平成27年度・平成28年度・平成29年度】 ○広報誌「社協だより」を年6回発行（全戸配布） ○ホームページの運営管理			【平成30年度】 ○広報誌「社協だより」を年6回発行（全戸配布） ○ホームページの運営管理（情報更新を頻繁に実施） ○フェイスブックの開設（R1.5.1現在 登録者10名）	
CHECK（評価）					
取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○地域福祉団体の把握（職員全体） ○活動内容の紹介 （社協だより、ホームページ） ○地域福祉団体との連携 （支部組織に地域団体代表者参加、情報交換）		【取組み委員会の意見・アイデア】 ○活動の規模を大きく考えず、むこう三軒両隣、お茶のみ談笑会、責任者を置かず ○各イベント等（市民祭・雨情祭）で広くPRする（呼びかけをする） ○PRの強化（学校・福祉施設等） ○取り組んでいない地域での実施 ○10年後の自分をイメージさせる ○子供を育てるのは親の責任と怒っている親がいる事に気付いた ○「声かけ・あいさつ」大切だと気付いた。 ○社協支部はコミュニティの形が崩れつつあり、声をかけても参加者が少ない ○どうしても市社協に頼ってしまう ○市社協に期待大です ○小規模な座談会の開催		
ACTION（改善）					
意見・ アイデアを 受けて取組み	○支部活動を広報誌に紹介 ○地域の活動を把握するため、地域訪問活動を実施 ○住民主体の活動を広報誌で紹介 ○学校と支部の話し合う場を設けた				

基本目標4 みんなですすめるまちづくり⑦

基本計画 1	地域福祉の担い手や団体を支援・育成する活動をしよう				
取り組む方向 3	みんなの計画をみんなですすめよう				
PLAN (計画)					
主な取組み 1	市民・社協・行政がお互いに連携します				
取り組む内容	地域づくりは「まちづくり」の視点から、お互いに必要な連携が図れるようにします。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	推 進				
DO (実行)					
取組み概要	事 業 名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	地 域 訪 問 活 動				21か所
	支 部 長 等 会 議 の 開 催	1回 (14名)	1回 (7名)	1回 (21名)	1回 (15名)
CHECK (評価)					
取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○地域の福祉団体や福祉施設などとの連携（情報や課題の把握） ○連携の強化 ○行政と意見、情報交換の場を作る		【取組み委員会の意見・アイデア】 ○地域、家庭、学校での挨拶運動を進める ○活動のはじまりは『あいさつ』からだと思う ○福祉大会の横断幕「あいさつからはじまる北茨城物語」良かった ○広く市民ボランティアの活用 ○お祭りで地域の若い人と「みこし」でつながりをつくる ○取組み委員会、対応するのに具体的、とっても良いと思う、今後の活動が見えやすい		
	ACTION (改善)				
意見・ アイデアを 受けて取組み	○企業や福祉事業者へ事業案内の送付				

基本目標4 みんなですすめるまちづくり⑧

基本計画1	地域福祉の担い手や団体を支援・育成する活動しよう
取り組む方向3	みんなの計画をみんなですすめよう

PLAN (計画)

主な取組み2	高齢者クラブ・PTA等の組織と協力して活動をすすめます				
取り組む内容	さまざまな地域の団体と連携・協力して、地域でのまちづくり活動をすすめます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	強 化		推 進		

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	三世代地域交流事業	342名	173名	180名	211名
	生きがい対策事業	8,442名	8,632名	8,943名	8,960名
	三世代の集い事業	3回(398名)	3回(428名)	2回(307名)	2回(301名)

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○高齢者と子どもの交流事業を増やす ○福祉団体の把握と活動の支援 ○高齢者クラブの減少を防ぐ	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○地域、家庭、学校での挨拶運動を進める ○活動のはじまりは「あいさつ」からだと思う ○福祉大会の横断幕「あいさつからはじまる北茨城物語」良かった ○広く市民ボランティアの活用 ○お祭りで地域の若い人と「みこし」でつながりをつくる ○取組み委員会、対応するのに具体的、とっても良いと思う、今後の活動が見えやすい
----------------------------	---	--

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○レクリエーションのパンフレットの作成 ○学校での世代間交流事業に各種団体へ参加を呼び掛ける
----------------	---

基本目標4 みんなですすめるまちづくり⑨

基本計画1	地域福祉の担い手や団体を支援・育成する活動しよう
取り組む方向3	みんなの計画をみんなですすめよう

PLAN (計画)

主な取組み 3	取組み委員会（仮称）で計画の進み具合について話しあいます				
取り組む内容	計画の進行管理を行い、着実な実施に努めます。				
年度ごとの 取組み状況	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	推 進				

DO (実行)

取組み概要	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	取組み委員会	1回	3回	3回	3回

CHECK (評価)

取組みに対する みんなの意見・ アイデア	【社協職員の意見・アイデア】 ○地域福祉の充実強化（課題の把握と検討） ○担当課に捉われない （職員一人ひとりが役割を持つ、関心を持てる働きかけ）	【取組み委員会の意見・アイデア】 ○地域、家庭、学校での挨拶運動を進める ○活動のはじまりは「あいさつ」からだと思う ○福祉大会の横断幕「あいさつからはじまる北茨城物語」良かった ○広く市民ボランティアの活用 ○お祭りで地域の若い人と「みこし」でつながりをつくる ○取組み委員会、対応するのに具体的、とっても良いと思う、今後の活動が見えやすい
----------------------------	---	--

ACTION (改善)

意見・アイデアを受けて取組み	○適切な進行管理を図るため取組み委員会を開催
----------------	------------------------

3. 北茨城市社会福祉協議会地域福祉推進委員会設置要項

平成30年 3 月20日

北茨社協要項5号

(目的)

第1条 住民の生活福祉課題の調査・研究を行い、その課題の解決策を明らかにすることにより、住民主体の地域福祉活動の推進及び社会福祉法人北茨城市社会福祉協議会(以下「本会」という。)の事業の充実、強化を図ることを目的として、本会に北茨城市社会福祉協議会地域福祉推進委員会(以下「推進委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 推進委員会は、次の事項について協議する。

- (1) 北茨城市の地域福祉推進に関すること
- (2) 北茨城市地域福祉活動計画の策定並びに進行管理に関すること
- (3) 生活支援体制の充実及び強化に関すること
- (4) その他、会長が特に必要と認めた事項

(組織)

第3条 推進委員会は、次に掲げる者の内から20名以内をもって組織し、会長がこれを委嘱する。

- (1) 地域住民組織代表者
- (2) 社会福祉事業関係者
- (3) 社会福祉に関する活動を行う者
- (4) 学識経験者
- (5) 社会福祉協議会役職員
- (6) その他、会長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は再任することができる。

(役員)

第5条 推進委員会には、委員長1名、副委員長1名をおく。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選による。
- 3 委員長は、委員会を代表するほか、推進委員会の議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときはその職務を代理する。

(推進会議の役割)

第6条 推進委員会は、委員長が招集する。ただし、第1回の推進委員会については会長が招集する。

- 2 推進委員会は、委員の過半数の出席がなければ開催することができない。
- 3 推進委員会は、必要に応じて委員以外の者を出席させ、説明又は意見を求めることができる。

(守秘義務)

第7条 委員及び会議に出席を求められた者は、職務上又は会議を通じて知り得た秘密及び個人情報等を他に漏らしてはならない。

(事務局)

第8条 推進委員会の庶務は、本会事務局において処理する。

(その他)

第9条 この要項に定めるもののほか、推進委員会に必要な事項は、委員長が推進委員会に諮り、その都度定める。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

4. 北茨城市社会福祉協議会地域福祉推進委員会委員名簿

(1)委員

選 出 区 分	団 体 名 等	氏 名	備 考
地域住民組織代表	社会福祉協議会中郷支部代表	金 澤 久 雄	
	社会福祉協議会磯原支部代表	鈴 木 一 洋	
	社会福祉協議会華川支部代表	佐 藤 修	
	社会福祉協議会関南支部代表	金 澤 善 一	
	社会福祉協議会大津支部代表	鈴 木 則 子	
	社会福祉協議会平潟支部代表	黒 澤 啓 子	
	社会福祉協議会関本支部代表	中 根 博 文	
社会福祉事業関係者	北茨城市市民福祉部高齢福祉課	篠 原 はるみ	
	北茨城市市民福祉部子育て支援課	村 田 貴 紀	
	北茨城市市民福祉部まちづくり協働課	大 山 智 慶	
社会福祉に関する活動を行う者	連合民生委員・児童委員協議会会長 グループホームアーシャ 大津町ご近所声かけ隊	遊 座 健 一 鈴 木 胖 村 田 章	副委員長
学 識 経 験 者	元小学校長、北茨城市教育委員 北茨城市校長会代表	沼 田 昇 平 緑 川 弘	
社会福祉協議会役 職 員	社会福祉協議会副会長 社会福祉協議会理事 社会福祉協議会評議員 社会福祉協議会評議員	茅 根 修 善 佐 藤 一 男 久保田 三枝子 和 田 峻 祐	委 員 長
会長が必要と認める者	北茨城市商工会	上遠野 忠 信	

(2)アドバイザー

アドバイザー	茨城県生涯学習・社会教育研究会会長	長谷川 幸 介	
	茨城県社会福祉協議会地域福祉アドバイザー	外 岡 仁	



「第3次北茨城市地域福祉活動計画」の策定にあたり、本会ではマスコットキャラクターを募集しました。表紙の絵は、最優秀賞に選ばれた常北中学校3年の小野誉訓^{ゆい}さんの作品です。(学年等は受賞当時のものです。)

これからは、『結ちゃん』が本会のマスコットキャラクターとして「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を目指し、スタッフの一員として頑張っていきます。